

幼 兒 教 育



第 十 一 號 第 十 一 月 第 四 十 卷

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

日 本 幼 稚 園 協 會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

(再版)

觀察の實際

菊判一三〇頁

定價金壹圓

送料東京金六錢
市内金六錢
其他金九錢

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

菊版三五〇頁
定價金壹圓五拾錢
送料市内金六錢
地方北海道・臺灣・樺太・朝鮮・滿洲金拾五錢

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際 (四版)

定價金壹圓
送料金六錢

幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共

六六二七一 東京警振

會協園稚幼本日

五三塚大・川石小・京東
內園稚幼屬附師高女京東

幼兒唱歌募集

—フレイベル賞による懸賞募集—

先年株式會社フレイベル館高市社長より同館創業三十周年記念として、保育資金一千五百圓を全國保育界に對して提供せられ、その使途につき本會に委託せられましたことは度々本誌上に御報告申し上げた通りであります。よつて本會はそのため特に實行委員諸氏を御委嘱し、協議の上、童話童謡手技等の懸賞募集を行ひ來り、いづれも好成績を擧げましたことも御承知頂いてゐるに存じます。今回は更に募集範圍を擴大して、幼稚園の方々の外、小學校教育御關係の方々にも御應募を乞ふこととしました。廣く多數の優秀作品を得たいと期待して居ります。左の規定により盛に御應募下さるやう願ひます。

募集規定

應募作は幼兒にうたはせるに適するものたること。(適當なるものには曲譜を附す)
主題、内容、長短は隨意。

幼稚園、託兒所保母諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

應募篇數任意。

原稿紙にペン書のこと。

應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)幼兒唱歌募集掛宛のこと。

締切 昭和十六年二月末日

發表 昭和十六年五月一日日本會發行の「幼兒の教育」誌上。

入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。

フレイベル賞

一等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

審査 (五十首順)

及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 齒氏

原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會幼兒唱歌募集掛宛お問合せ下さい。

昭和十五年十一月

東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

月刊
雜誌

家の教育

十一月號目次 每號金十錢
一ヶ月金壹圓

誌友大募集

- 一 卷頭言
- 二 家の教育と幼児の教養
- 三 照官様の國旗のお話
- 四 母さして知つて おかねばならぬ 國民學校(一)
- 五 十一月の家庭會
- 六 幼稚園の生活(一)
- 七 幼児の詩
- 八 十一月の保育事項
- 九 お辨當を忘れた子
- 一〇 幼児劇(迷兒のウサ吉さん)
- 一一 教育 作 子供のころ(一)
- 一二 教育相談欄
- 一三 編輯後記

現品 贈呈

見本 往復ハガキにて御申込
次第贈呈す

與へよ!! 少國民に心の糧

子寶文庫

安倍季雄先生名著

- | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 雷 | 戰 | 千 | 花 | 將 | ま | 天 | 可 | 愛 | 父 |
| 龍 | 場 | 本 | ち | 軍 | ぼ | か | 愛 | の | の |
| の | の | 松 | る | の | ろ | け | い | ゆ | 夢 |
| の | 朝 | ば | る | の | し | る | お | り | の |
| 首 | 霧 | ら | 里 | 涙 | の | 天 | 手 | か | 夢 |
| | | | | 城 | 馬 | 紙 | 紙 | ご | |

價格

一冊壹圓也 送料拾錢
全十冊一組 金十圓也(送料不要)

裝訂

四六判五號活字かな付貳百四十五拾頁
内外・口繪三色版・美裝上製本

發行所 東京神田區橋本會館内 東京橋本會館内 東京橋本會館内



第十四卷 幼児教育の第一十號

—(次 目)—

扉

幼児保育と幼児教育……………倉橋惣三(一)

兒童研究法講義(五)……………松本金壽(四)

十一月の保育……………及川ふみ(九)

滿洲の旅みやげ……………武田雪夫(二)

國民學校實施に際して保育者としての立場は?……………山村きよ(一四)

あたらしいものへ……………K・S(九)

フレーベル賞入選童話・童謠

童話 兄弟熊……………佐々木敬太郎(三)

童謠 電信柱……………若宮梅子(二六)

月……………森田明子(二七)

蓑蟲小蟲……………坂本レツ(二八)

幼児の母……………津田芳雄譯(三三)

ハイデイ——ヨハンナ・スピリ原作……………

國民學校と國民幼稚園(三)……………倉橋惣三(一六)

松石治子先生二名著名

幼兒教育界の新研究新發表

新刊

幼稚園
託兒所

自由遊び

四六判・七〇頁
價一圓二十錢
送料十錢

自由遊びは保育への出發點である、保育への誘導も容易ではなからうか。即ち重要な此の道を餘りにも氣付かなかつたのではないか。著者の此の新研究發表を見よ。

幼稚園託兒所の必備書

好評

實際保育の要領

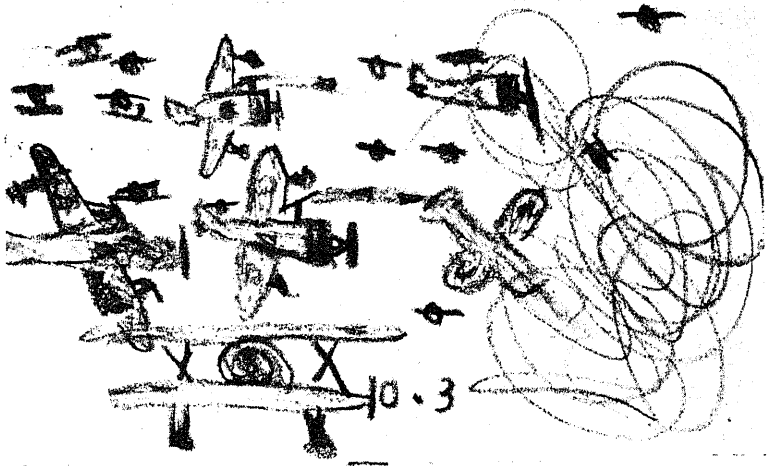
四六判・四〇頁
價一圓三十錢
送料十錢

多くの保姆先生の中には理論には長けて居るが少しも實際の役に立たぬ云ふ人がある。之は確かに實際の経験が少い爲めに保育の要領が呑み込めないからである。保育の實際問題として種々雑多な事が起つて來るがそれを一々聞いて歩くのもいやだし、書物にも書いてない。仕方がないからその儘濟して了ふ云ふ人々が多い。斯う云ふ人々の爲めに著者が十數年の保育の體驗から割出したのが本書である。

發售所

東京市神田區猿樂町二丁目三番八

發售所



時局に關心をもつことに於て、幼兒は決しておとなに負けない。その繪に戰爭畫の多いことはその證明である。しかし又、どんな慌しい中にも、自分の情操を大切にすること幼兒の如きも尠ない。

一人が防空演習の飛行機を、口に爆音をさせながら緊張した顔で描いてゐる。一人が窓の外のダリヤの紅い花を、なごやかな顔をして寫生してゐる。幼稚園の同じ机の上である。

(倉橋惣三)

幼児保育と幼児教育

倉 橋 惣 三

幼稚園は幼児を保育するところを、幼稚園令にも記してある。その保育といふのは、教育といふのこゝ、さう異り、さう通ずるのか。これは屢々持ち出される問題である。しかもたゞに言葉の使ひ方としてではなく、言葉が事實をきめてゆくところから、實際上、然り、行政的にさへ、いろいろの問題を生ぜしめる。

私の古い記憶は、幼稚園令制定當時に、それを機会として、保育といふ特殊な言葉をやめて、一切、幼児教育、幼稚園教育で統一したいといふ意見が、一部の眞面目な識者によつて論ぜられたことを思ひ起させる。それが正面的に相當深い理論的根據の上に主張せられたものであつたことも想起せられるが、その裏面的理由としては、保育といふ特殊な用語の故に、幼稚園の教育性が、何んさなく軽く、薄く、弱く考へられる傾向のあり勝ちなことを憂ふるところも大になつた。而して、そういう感じは、今日でも、——保育といふことの意義が深くも重くも理解せられ來つた今日に於ても——まだあることであつて、幼児期の教育に熱意をもつ保母諸君なきとして、甚だ物足りないものがあつたりするのである。

いふまでもなく、保育は教育である。未成熟者のゐるところ、教育なきはなく、未發達者に對すること、教育ならざるはあり得ないのである。この意味に於て、幼稚園は、教育精神を以て幼児に接してゐるところである。

たゞしかし、教育は、その意圖に於て同一であつても、對象に應じて、それらの様態を異にし、そこから、教育のそれらの特色を生じ來る。而してその相違は、教育を生活から、その位純化して取り扱ふか、取り扱ひ得るかといふ點にかゝる。

幼児の場合、教育の純化は不可能であり、不自然である。そこには、最もナマな生活に觸れ、また、それを通してのみ

行はれる教育があるだけである。俱に遊ぶことなしに教育は行はれない。身邊の行き届いた保護撫育を與ふることなしに教育は行はれない。少くも、それらの生活接觸を織りまぜられることなしに、教育を生活からかけ離れさせて行ふことは出來得ない。そこに、年長兒童の教育の場合を異る様態を免れないのである。免れないことは、生活からかけ離れた様態の方を主にしての見方で、逆にいへば、そこにこそ、そうした教育様態の妙味が存するのである。

ここまでも、この妙味の裡に幼兒を教育してゆくのを、特に名づけて、保育といふのである。たゞ教育といつては、その相違が無視せられる危険があり、その妙味の漂はざることのあるのを惧れるのである。若し夫れ、幼兒教育といふ言葉を以て、直にその特色に徹し、この妙味を感じる程の人々には、幼兒教育といつて、何等差支へないのでもあるが、なかなかそういかない。保育をこゝろわつて置いてさへ、學校の教室教授と同じやうなことをしたがつたりする人があるのである。

しかしまたかういふこともある。保育だから教育ではない。教育的でもなくていふことである。たゞ食物を與へてやればいゝ。たゞ衣服を着せてやればいゝ。たゞ葦寢をさせてやればいゝ。怪俄をさせぬやうに遊ばせて置けばいゝ。遊ばせもしないで、うつちやつて置けばいゝ。こいつた具合で、幼兒を預るだけで任了はれりとするのである。

勿論、それだけのこゝでも大切である。缺けたるに補ふところ大である。社會的に意義は廣い。緊急々務たること素よりである。しかし、それだけでいゝものか。少くも、それだけでいゝと思つていゝものか。その上にいふのでなく、その他にこいふのでなく、それに於てはあがあるが、その教育的意義が、教育的意圖の形にまで凝集思念せられてなければならぬのである。

一體に、教育といへば精神を、保育といへば身體をこいつた風の考へ方が、さうも取り去られない。教育の對象に身體を置く時、體育といふ立派な教育の一分野になるが、そればかりに止まらず、身體を通して初めて眞に出来る人間の教育があることを忘れてはならない。保育は、身體に關する點が多い。しかもそれは、身體を對象にし、又、身體を通して人間を對象としてゐる教育、それこそ謂ふところの全人教育なのである。たゞ、そこに教育性の意識がないと、それがつい忘れられたり、落されたりする。

その上に、保育による全人教育をなしつゝある間に、それらゝの教育的の工夫を交へてゐることも亦、保育の教育法を増す所以である。所謂、幼児預り事業の人々には、時々するに、この工夫が餘りにも缺けてゐる。この工夫にばかり凝つて保育を忘れるのが眞の幼児教育たり得ないと同じく、それはまた、眞の保育になり得ない。

そこで、やれ幼稚園式だの、やれ保育所風だのいふ言葉の上の對立が、さも尤もらしい對立としてはやし立てられたりする。さて、それは、實際に何を意味し、何を示すものであらうか。いづれも同じ幼児保育にそんな別のあり得やう筈はないのである。勿論、誤謬の中の優劣を論ずれば、所謂、幼稚園式の方が幼児保育として大きい誤りを冒してゐるかも知れない。それは、教育には必ずしも保育を伴ふことを必然としないからである。それに比して、所謂保育所風の方は、教育的に稀薄であることはあつても、保育には、それが若し、保育として眞に保育なら、教育的のものを伴ふのが當然だからである。

幼稚園は家庭教育を補ふところとされてゐる。何故に、家庭生活を補ふところと言はないか、或方面からは言はれたのである。しかもそれは、家庭生活を補はないのではない。食も補ふ。衣も補ふ。しかし、たゞ、それだけで止まらないので、物を與へるだけであつたり、親の多忙を手助けするだけであつたりするに過ぎない。即ち昔の所謂慈善事業、今日の社會事業の最低意義に止まる。必要なことはそうぢやないのである。それが家庭生活補助と上べからは見えたとしても、その實は教育的のものでなければならぬのである。そこに、食物配給掛、衣服調達掛とは別の、幼児教育者即ち保姆の存在があるのである。

保姆諸君は、社會事業關係の保姆諸君も、教師でないから教育者でないとは思つてゐない。教師でないところに、保姆としての幼児教育の専門家たり得るのであると確信してゐる。保育を教育から區別して、全く別物であつていゝかのやうに考へてゐたりしてゐるのは、事業を事業としてのみ事に當つてゐる者達の淺薄な考へ方である。

兒童研究法講義 (五)

第四高等學校教授

松 本 金 壽

嬰兒の研究法

前にも述べましたやうに、兒童といふ概念は非常に廣い意味を含んで居ります。生れ立ての赤ちやんも廣い意味の兒童の中ですし、又小學校兒童といふ言葉がありますやうに、六七歳から十二三歳の大きな子供までも此の中に含まれて居ります。ギーゼンかウォレンとかいふ人の「心理學

辭典」にも、誕生から成熟期に至るまでの兒童の精神發達を研究するのが兒童心理學であるを定義されて居りますが、こんな廣い範圍に互つての研究法といふと、結局のところ、「事實の蒐集」のところで示したやうな一般的抽象的なものになつて了ひます。然しこれから述べようとするのは、そんな一般論ではなく、もつと具體的なものでなければ

ばなりません。それにしても、誕生から成熟期に互るさいつたやうに、人間の生涯の中で發達の一番目覺しい時期を一緒くたに取扱ふことは困難です。そこで研究法を述べる上から云つても、兒童期全體の區分が必要になつてきます。ところで、廣い意味の兒童期といふものは次のやうに分けられるのが普通のやうです。

胎 兒 期	受胎から出生まで
嬰 兒 期	出生から三歳まで
幼 兒 期	三歳から七歳まで
少年少女期	七歳から十五歳まで

ドイツ語や英語にも是等の各時期に相當する言葉があるのを見ますと、是等の各時期は單に年齢上の區分だけではないことが知られます。尤も嬰兒期の代りに乳兒期、少年少女期の代りに學童期といふ名稱をまつても差支ないでせ

うし、幼児期や少年少女期などは前期、後期といふやうに更に細分する方法も知られてゐますが、立入つた繋索は省略致して置きます。この中、胎児期を除く三期が兒童研究法の對象となるわけですが、私は嬰兒期・幼児期の方を主に兒童心理學の方法論として取扱ひ、少年少女期の方は教育心理學の方法論として考察し度いと思つてゐます。嬰兒の研究法を先づ最初に述べようとするのは、こんな理由が主なものですが、それと共に、次のやうな事情を大いに考慮した結果に外なりません。

「事實の蒐集」のころでも述べましたやうに、嬰兒期の兒童のやうに極く幼少の兒童に對しては、非常に限られた研究法しか導入が出来難い事情があります。是等の兒童は言葉の理解も表現も未だ非常に不充分で所謂聞き分けのない時代ですし、又行動の上からいつても極めて未分化な時代です。それですから、彼等に言語的な報告を求めるところはもろく無理ですし、又我々が言葉で色々な指圖を與へて一定の課題をやらせてみるさいふやうなことも不可能なわけで、嚴密な意味での實驗といふことは特別な場合を除いては行ふことが難しいのです。その上、是等の兒童からは繪とか文とか粘土細工といったやうな精神的産物も極く稀にしか入手出来ませんから、研究上の大部分の資料といふものは、自然の環境下における遊びを通しての觀察(偶然

的觀察及び系統的觀察)に依らなければならぬになります。従つて、こゝでは運動機能とか記憶とか言語とか言つたやうな個々の具體的問題についての研究法を述べるさいふよりは、全體的な觀察といふことが重要な意味を持つてきます。そこで嬰兒の研究法としては觀察と實驗の二大別の下に一括した説明を行ひ度いと思ひます。

二

觀察といふは、嬰兒ぐらゐる好都合なものはないでせう。第一に、是等の兒童に一つの起居動作について非常に細い保護と監督が必要ですから、この保護と監督とは、さうも直さず、觀察へは轉化することが出来ます。次に又、彼等の行動場面は非常に限られてゐます。三歳以上になりますと、可なり遠くの方までも遊びに出掛けたりしますが、この時期の兒童はさうした獨り立ちが出来ないで、大概は保育者(両親や兄弟など)の傍を離れずになりますから、觀察の機會は無限に豊富だといふことが出来ます。それですから、注意深く記録でも取らうとすれば、細大洩らさずに出来るわけです。昔から有名なブライエルやシン女史などは觀察記録、所謂兒童日記は斯うして出来上つたわけですが、このやうな觀察にも自ら大體の方針が立てられてゐます。勿論、日々の行動の全經過を出来るだけ詳しく觀察するところが大切な條件ですが、記録には特に、初めて現はれた新

しい行動にこれまでの行動には認められなかつた新しい變化が中心として取上げられるのが普通です。そして是等はいづれも系統的觀察法に屬しますが、この中にも行動の凡ての方面に互る觀察記録と特別な方面(言葉とか繪など)だけの觀察記録との分化が示されてゐます。石川貞吉氏・高良富子氏・波多野勤子氏・久米京子氏等の觀察記録は前者の方向ですし、久保良英氏・高峰博氏・城戸幡太郎氏・大脇義一氏等の觀察記録は、いづれも言語の發達を中心としたものですから、後者の方向のものに云へませう。

シュテルンは兒童日記をつけるに當つて誰でもが心得えて置かなければならぬ注意事項として、次のやうな諸點を擧げてゐます。即ち、その兒童の體質・遺傳的關係・環境についての詳しい報告は申すまでもありませんが、とりわけ、誰がその子供の保育を擔當してゐるかといふこと、及び旅行とか病氣などによる生活上の變化は、特別な關心を持たねなければならぬ點だに述べてゐます。勿論、兒童日記をつける場合の注意事項としては、觀察された事實と共に、その場合の周圍の條件や前後の事情を記載して置くとか、觀察された事實とそれに對する觀察者の解釋とを峻別して置くとか云つたやうな一般的な心得が必要なことは申すまでもないでせう。

尤も、以上のやうに注意しても、本當に専門的な觀察を

行はない限り、見逃される事實は幾らでもあります。兩親とか兄弟とかの場合ですと、二六時中、ひつきりなしに傍についてゐることも出来ませんが、觀察者が同時に保育者であり又記録者でもあるといふところから、色々な缺點も生ずるわけです。こんな點までも考慮して、兒童の全行動を完全に餘すところなく觀察し盡す爲には、兒童の自然の状態を損はないで、しかも充分に觀察が出来るやうな特別な施設と、交代しながら晝夜を分たず觀察し続ける専門家が必要になります。兒童研究で有名なシャロット・ピュール夫人とヒルデガルト・ヘツツェル女史の「一歳兒の行動記録」といふ研究は、このやうな困難に打勝つて完成された輝しい業績と云ふことが出来ます。彼女等は、この觀察記録の結果から、嬰兒の行動を量的及び質的の兩側面から分類し、生後一ヶ月目から一年の終りに至るまでの各時期に、各々の行動がどんな割合で發達變化してゆかを示し、最近の兒童研究に大きな貢獻を致しました。

兒童觀察の特別な施設は愛育研究所・京都市兒童院・神戸市立兒童相談所等にあります。

又、ピュールとヘツツェルの研究結果は山下俊郎氏の「幼兒心理學」に紹介されてゐます。

三

嬰兒についての實驗的研究は、先づ心理學的方面よりも

生理學的問題に對してなされたこと云ふことが出來ます。例へば、光さか音さかさいつた刺激の性質の違いや、是等の各々の與へ方の違ひなきによつて、嬰兒の呼吸さか血液の循環に、どんな變化が現はれるか云つたやうな問題が先づ第一に取り上げられた次第です。甘味のものや苦味のものゝが嬰兒の吸乳運動に、どんな影響を及ぼすかさいふやうなことも、屢々取り上げられる問題の一つです。前にも述べましたやうに、嬰兒に關する實驗的研究は非常に限られてはゐますが、然し凡てがこのやうな問題ばかりではありません。色々な音や色々な色に對して、どんな反應を示すかさいふやうなことや、色々な身振表情に對して、どの程度の模倣が出来るかさいふやうなことや、遊戯や玩具等に對しても、幾つかの實驗的研究が示されてはゐます。が然し、嬰兒は實驗的研究の對象とするには餘りにも幼少です。彼等を實驗が目的とする課題に惹きつけることが、如何に困難であるかは誰しも想像に難からぬことと思ひます。それ故、これまでのところでは、この方面から特に優れた實驗法さか、嬰兒研究に獨自な方法さかは發表されて居りません。たゞこの方面に關する研究法さして特記しなければならぬものは、ビュールルミヘッツェルの考案した乳幼児の智能検査法でせう。

智能検査法ミ云へば、これまではビネー・シモン法が聯想

された次第ですが、周知のやうに此の検査法は三歳以上の兒童にしか適用されません。従つて嬰兒に對する智能検査法の缺如を充たさうとする要求は極めて熾烈なものであつた次第です。ビュールルミヘッツェルが一九三二年に、生後一ヶ月から六歳兒までの智能検査法を發表したことは、學界多年の懸案に最後の解決を與へたものこと云ふことが出來ます。我が國でも此の検査法を日本化し度いさいふ要求が久しい以前からあつたわけですが、最近になつて愛育會の手で完成されました、詳しいことは愛育會の「乳幼兒の精神發達」第一輯(昭和十四年)に譲りますが、この検査法は色々な動作や表現が初めて現はれてくる年齢時期なきに關しても大體のヒントを與へてゐる點なきからみても、ビネー・シモン法よりも興味が深いものです。アメリカのシャールイ女史が發表した生後一ヶ月から一歳半に至るまでの運動機能の發達標準と共に、嬰兒研究における最近の收穫ミ云ふことが出来ると思ひます。

乳幼兒の智能検査法の一例

零ヶ月兒検査系列

- 第一問 觸れた物をつかむこと
- 第二問 身體の位置を變化することにより靜かになること
- 第三問 軽い音で靜かになること
- 第四問 弱い光を見ること

第五問 妨害的接觸を避ける運動

第六問 厚紙蓋で妨げられる場合に不定の全體的反應を示すこと

第七問 腹這ひの姿勢で頭を少し上げること

第八問 お乳を奪はれた時に口を開くこと

一ヶ月児検査系列

第九問 鈴の音を聞くこと

第十問 光を凝視すること

第十一問 動く毛糸を凝視すること

第十二問 脊後に動く事物を眼で追ふ

第十三問 子供が掩布で掩はれる時不定の全體的反應を示すこと

第十四問 體を起した場合に頭を真直ぐに保つこと

第十五問 話しかけられて靜まること

第十六問 喃語

シャトレイ女史の運動機能の發達標準 (以下省略)

一ヶ月 腹這ひ姿勢で顎を持ち上げる

二ヶ月 右と同じ姿勢で肩を持ち上げる

三ヶ月 手を伸して物を掴まうとするが、掴めたり掴めなかつたりする

四ヶ月 支へられれば坐る

五ヶ月 膝の上でエンコして物を握る

六ヶ月 椅子の上に腰掛けて揺れる物を掴む

七ヶ月 獨りでエンコが出来る

八ヶ月 つかまり立ちが出来る

九ヶ月 這ふことが出来る

十ヶ月 支へられて歩く

十一ヶ月 家具を引き寄せて獨り立ちをする

十二ヶ月 階段を昇る

十三ヶ月 獨り立ちが出来る

十四ヶ月 獨り歩きが出来る

十五ヶ月 前々號における拙稿の正誤表

頁 段 行 誤 正

表題 事實整理 事實の整理

二二 下 二一

二三 上 二 標準偽差 標準偏差

二四 上 五

二四 下 一二クレッケメル クレッチメル

小向喜美女史を悼む

小向喜美先生は昭和十二年三月まで、東京市立本郷第一幼稚園長として永々我が幼児教育界に盡瘁せられた方。御勇退後はひたすら御趣味に御精進遊ばしてお出でございましたが、去る十月三十日長逝せられました。本會は謹んで哀悼の意を表します。

日本幼稚園協會

十一月の保育

及川ふみ

十一月は三日の明治節、十日の紀元二千六百年式典、十一日の紀元二千六百年奉祝會なごあつて、幼児に國家、皇室に對しての尊敬、感謝の念を層一層深く培ふのよい機會が度々あるのであるから、この期の保育案をたてるのに當つて十二分にこの點に留意しなければならぬ。唱歌にも、談話にも、觀察にも、手技にも、それなご適切なる材料を見出したいものである。又十月につゞいて自然の觀察を以て紅葉、落葉、實つた稻なご出来るだけ實物について觀察がのぞましい。

第一週 十一月四日——九日

月

唱歌遊戯 奉祝國民歌紀元二千六百年

國旗作り 紀元二千六百年式典として保育室を飾る國旗を作る。畫用紙或は模造紙、半紙なご材料の手に入りやすいもので作つて、絲に吊して裝飾にする。

火

お話 お米の話、擬人法によつて幼児のお辨當の御飯から話し出すのも一方法かとも思はれる。
自由畫 園庭にある紅葉を拾つて寫生させる楓、葛、櫻、いてふ

水

粘土 自由製作

木

唱歌遊戯 奉祝國民歌紀元二千六百年
團栗の日の丸コマ

金

お話 紀元二千六百年式典のお話
國旗づくり、幼児の帽子、胸なごに飾る小國旗をつくる

土

唱歌遊戯 紀元二千六百年

第二週 十一月十一日——十六日

月

紀元二千六百年奉祝會

全園幼児一堂に會して奉祝、國旗をかざして園内を旗行
進をするもよい。

火

自由畫 菊の花

園庭の菊、或は花瓶の菊など出来るだけ簡単な枝ぶり
のものを材料とする。

水

唱歌遊戯 木の葉

木

お話 七五三神詣

人形作り

金

粘土 自由製作

土

唱歌遊戯 木の葉

自由畫 七五三

第三週 十一月十八日——二十三日

月

お話 日曜日のここの話合ひ

自由畫

火

唱歌遊戯 工夫さん

水

ヌリエ ヒカウキ

木

お話 三匹の子豚

自由畫 三匹の子豚

金

唱歌遊戯 工夫さん

新嘗祭のお話

土

新嘗祭々日

第四週 十一月二十五日——三十日

月

唱歌遊戯 工夫さん

火

お話 童話

粘土 みかん

水

紙仕事 古端書で自由製作

木

唱歌遊戯 工夫さん

ヌリエ ダルマ

金

開校記念日休み

土

お話

自由畫

滿洲の旅みやげ

武田雪夫

一、まへがき

私は、この春の四月から七月にかけて、滿洲國をはじめまして、蒙疆、北支の各地を歩いて來ました。その三ヶ月に亙る旅の中に記した、幾冊ものノートの中から、少しでも興味のある話を、あれこれ拾ひ出して見ようと思ひます。

もし、こんごの旅のみやげの貧しい一包にでもなりましたら、幸これに過ぎるものはありません。

二、黒服の女

ハルビンの繁華街、キタイスカヤ街でありました。まだ、人通りも少くならない、夜も浅い頃でした。

私は、さある一軒のコーヒー店に入らうと思ひました。するに、入口の扉が靜かに、ひさりで開きました。驚いて、よく見ますに、うす暗い扉のかげに、一人の年まつた女が立つてゐました。

見れば、その女は、眞黒な服を着て、頭には眞赤な布を冠つてゐました。そして片手には、曲つたステッキを持つてゐたやうでありました。

それこそ、外國の童話の本の挿畫にでも出て來さうな姿であります。

——白系ロシア人か、いやユダヤ人であらう、と思ひながら、私は急いでズボンのポケットに片手を入れて、いくらかの金を取出して與へました。

その黒服の女は、私に貰つた小錢を握つた手を少し持上げて、丁ねいに頭を下げました。私は何だか、童話劇の一場面に出演してゐるやうな、妙な氣持になりながら、そのステップをのぼつて行つたのであります。

そして、椅子に腰を下して、コーヒーを命ずるに、私は今の乞食と日本内地のそれとを比較して考へてみました。それは比較するまでもない、祖國もなく、その位置まで轉落した、この土地の乞食こそ、最早いかにしても浮び上ることは不可能なのであります。

彼等に、いくばくかの金を恵むのは、その點から言つても、單なる旅人の淡い感傷の心からばかりではないのであります。唯一の安住の地として、こゝに細い生活の糸を紡いでゐる彼等、一生いまの生活を抜切れない、運命として決定されてゐる彼等であることを思はずにはゐられなかつたのであります。

三、靜かな交歡

北滿の開拓地は、青少年義勇軍の訓練所と同様に、あちこち幾つも訪れましたが、これは圖佳線の牡丹江と林口との中間、仙洞の開拓地を訪ねた時の話です。

開拓團の部落は鐵道線路の東側にあり、西側には一寸した滿洲人部落が、小さな屋根をならべてゐるのであります。そして、線路のすぐ東側には、何本かの鐵條網が張つてあつて、開拓團の部落の境界になつてゐました。

従つて、兩方の部落の者が交通するには、南か北へ、何丁か行つて、その踏切のミどころからなくては不可能で、鐵條網の下をくゞれるのは、小さな犬位のものであります。

開拓團の農家と農家との間から、畑と鐵條網と線路と、それを越えた向ふの滿人部落を一しよに眺めながら、私は開拓團の部落の中の道を靜かに歩いてゐました。

線路のこちらの鐵條網のところに、一人の滿人の幼い子が立つてゐるのが見えるに、私は立止つたのでした。その子は、小さな手で鐵條網の鐵線につかまつて、それを上下にゆすぶりながら、何か意味も解らぬ叫聲をあげてゐました。

何の氣もなく私は、また歩き出さうとしたのですが、そのまゝ足をさめて、だまつて眺めてゐました。滿人の子の叫聲を聞きつけたやうに、一人のやはり小さな日本人の子が、開拓團の農家から、あぶなつかしい足ざりで駈出して來

たからでありました。

やがて、日本人の子は、畑の中の細道を一二度膝か手つきながら、やつと鐵條網のまころまで行つて、二人の幼兒は、お互に近づきました。するま満人の子が、片手を鐵線の間から、日本人の子の方へ突出して何か言ひました。

するま、こちらにゐる私には、よく見えなかつたけれど、その満人の子の手に、日本人の子が、すぐに手を觸れたらしく、満人の子が、顔中で笑ふのが見えました。

思はず、持つてゐたカメラをケースから出して、二人の子の方へ近づいて行かうとした私は、すぐに思ひなほして、その二人の静かな交歡を亂すまいとしました。

再び見ますま、二人の日滿兩國の幼兒は、おそろく何時もさうするのでありませう。同じ一本の鐵線につかまつて、何か歌をうたひながら、一しよにゆすぶつてゐるやうでありました。向ふに面してゐる日本人の子の顔は見えませんが、やはり笑つてゐる満人の子の顔から、楽しさうに笑つてゐるであらうこまほ、容易に想像出來ました。

私は、その可憐な風景を、小さな日滿の兩國旗が一しよに打振られてゐるやうに、また春風にはためいてゐるやうにうれしく感じながら、歩き出したのでありました。

そして、出来るだけながく汽車の來ないやうに願ひました。なほ、あの子たちが、何丁も歩いて踏切のまころまで行かれるやうに大きくなる日が、一日も早かれま念じました。いや、滿人部落ま開拓團まの間の鐵條網の取去られる日こそ、一日も早かれま祈つたのでありました。

それは、丁度、北滿の春も、やうやく深い五月の頃でありました。今は、あの邊も秋深く、清涼の風が吹いてゐるこまであらうま、私は秋の立ちそめた自分の書齋で、過ぎし旅の思ひ出をなつかしんでゐるのであります。

(皇紀二千六百年初秋「積木の家」にて)

國民學校實施に際して

保育者としての

立場は！

國民學校の教育が國民全體に對する基礎教育であり、それが國民生活に影響して、やがては國運の將來を左右するものであるならば、三つ子の魂百までといふ幼児期の基礎教育はより重大なものであるといふことは、今更考へるまでもないことでございます。

しかしこの幼児教育の重大さは昔から叫ばれて居つた事で、しかも未だにその普及發達が思はしくないといふのは何に原因して居ることで御座いませう、物論義務制でないこともその條件の一つで御座いますが、その義務制にならぬといふことは、あなたがち經費の點ばかりではないと存じます、世の一般の人々には勿論、當局の方々にも、まして同じ教育の畑にあつて教育の道に携つて居られる小學校の先生方、時には園長にさへも充分理解していただけない様な現状にあつたからだと思います。又數多い幼稚園の中

麴町區富士見幼稚園

山 村 き よ

には、理解してもらへない様な保育内容を持つた幼稚園があつた爲では御座いませんでせうか、勿論從來の小學校組織、經營方針と幼稚園の保育方針とにさうしても相入れられぬ、連りきれない何ものかあつた事はお互ひに認められて居りましたものゝ一歩退つて靜かに考へた時その保育内容が重大な保育の使命を完全に了して來たかどうか疑問に思はれる點が澤山あると思ひます。ここに忘れられて居ることが澤山ありはせぬかミ常に痛感させられて居る次第で御座います。

從來の保育は二つの方向のどちらかに片より過ぎては居らなかつたでせうか、あまりに幼児の氣持ちを汲み過ぎて、自由／＼にミ走つたり、その反對に少しも幼児の氣持を、否幼児期といふ事も忘れて行き過ぎた保育をしてはるませんでしたでせうか？、一方面の行き方は幼児が幼いか

らくいふことをすべての立前にまつてあまりに感謝のみ走つた保育に片よつて居た様に思はれるので御座います。幼児教育が幼児期の特色を十分に發揮してその生活を充分に生活させることであるにしても保育者は將來を目標した教育的意識をも充分に持つて居なければならぬと思ひます。幼児生活は系統だつた理智的に誘導された生活でなければならぬと思ひます。

又一方面には幼児の氣持から全然はなれて、しかも保育項目の取扱ひに、その技巧のみに重きを置き過ぎて居はしなかつたでせうか。そして保育の根本さもいふべき生活指導、性情の涵養等にはあまり觸れられない様に感じられる點が多くは御座いませんか？

各保育項目を通しての期待効果が總合されて、生活指導に、性情の涵養に、保健に三向ふてゐることは事實で御座いますが、それがあまりに形に表はれる結果にのみさらわれてゐる傾きは御座いませんか、誰しも結果の表はれない仕事は張り合ひのないものでございますし、又與へる材料のはつきりした保育項目の取扱ひについての研究は、たゞへその保育者に得手不得手があつたさしても、努力次第で容易に出來得る事で御座います、又保育者に對するそれらの指導者にも恵まれて居りますが、人の目にもつかず、自分にさへもあまりはつきりさ效果の表はれない、

幼児の性格の表はれに對するいろ／＼の躰、十人十色の生活内容を持つた幼児の生活指導は實に／＼むづかしい事で御座います、又この方面の研究を助けるのは指導者如何でなく保育者自身の人格の如何によるものと思ひます、保姆自身の修養から成る人柄、熱心愛を理智的な誘導によるものと思ひます。

精神的にも身體的にも個々の發達階段を経て成長する幼兒の一人／＼を見つめて行く事は普大抵の努力では出來ない事で御座いますが、これが出來なくてなんで基礎教育をしたま云へませうか、國民學校案の幼稚園に對する要項「第一」に示されて居ることもこゝをさして居られるのだと思ひます。

今國民學校が新たな立場を以つて根本から教育の立直しをしやうとして居られる時、幼稚園のみが従來の傳統を守つて平易に過して行つてよいもので御座いませんか、十六年度から實施の國民學校開始に先立つて、大いに考へねばならない事だま存じます、そして要項第二、第四は是非共私共實際家によつて今直ぐからでも考へておかねばならない問題だま存じます、その意氣で毎日の保育を反省して觀る時にあまりに忘れられてゐる部面、考へ直さねばならない方法の多い事に氣がつくので御座います。自由遊びの誘導、生活訓練、社會性の練磨、集團生活の指導、發達

階段に伴ふ智的生活の指導等、より重大な幼児保健に至るまで一通りの事は行はれて居る事は云ふものゝそれがどこまで系統だて、取り行はれて居るでせうか、四歳児は四歳児なりに、五歳児は五歳児なりに、どこまで發展さすべきか、はつきりした目やすのものに保育さるべきであると思ひます。幼稚園時代ならではなし得ぬ「部面」のある事を忘れてはならないと同時に、決して行き過ぎた保育もしてはならないと思ふのでございます。

ここに國民學校の低學年教育の内容及び方法が、ある部面では幾分か幼稚園生活を考へて下さつて居られるやう伺ひ知ります時、又教則案の各精神を考へます時、就學前教育に於て誘導されたところが、就學後も續いて一つの系統に發展されて行くといふ事は實に幼稚園として嬉しい事だと思ひます、ここまでは幼稚園の仕事、これから先きは小學校で行はるべき仕事、といふ事はつきり區別されて又内容に於ても連絡されるべき點の澤山あることを今から研究する必要があると思ひます。從來の小學校連絡問題は言葉の上で、形の上での連絡であつて内容的には一寸も連絡して居らなかつた様に感じられるので御座います。

今十個條の教則案の本旨(精神)を胸に體して、同じ根幹を有する教育系統に連れて進む時の來た事を何より嬉しく思ふので御座います。幼稚園に關する要項の中の躰につ

いても、言葉は簡單に「躰を重視して云々」とありますが、ここが實に考へねばならない所だと思ひます、躰の本旨もいふべき事、保育精神がどの程度保育者自身に理解されて、又統一されて幼児の上にかゝつて行くかは實に疑問であると同時に心配な事で御座います。十人十色の性格を持つた保姆が(修養に於ても様々な違つた經驗を經てるる保姆が)躰々稱して自分の感情のまゝに子供を取り扱つて形の上には表はれた幼児の行爲のみで躰の如何を判斷したり、自分の主觀で子供を左右したり、所謂型にはまつた子供の出来るのを躰のよく出來た結果と思ふ様な間違ひは起らないもので御座いませうか、取越苦勞かも知れませんが今までの保育から照し合せてこの點實に心配で御座います、どこまでも子供の生活環境、個性等をはつきり見つめた上の、良心的教育の表はれでなければならぬと思ひます。それには保育方針の中に實踐せねばならない具體的な實例を示して、躰に對する保姆の心がまへさといふべき事はこの際はつきりさせておく事が必要であるを考へます。

要項第四に示されてある家庭との連絡問題も實に重大な事で、又我々保育者のすぐにも手をつけねばならない問題だと思ひます、我々保育者でさへ兎角感情に溺れ易い程に、母親、祖母等の盲目的な愛に育まれてゐる幼児の如何に多いかといふ事は私共實際家が常に經驗して、保育上何かさ

妨げられて居ることで御座います。ここに最近の様に一年保育児が多くなつてまゐります。三つ子の魂百までといふ時機は殆んど家庭教育によつて過ごされて居りますので、その結果いろいろの性格に行きあたる保姆の悩みも普及大抵では御座いませぬ、我國婦人の特徴さもないふべき愛情だけの育て方をする、ある階級の母親達を、もつと理智的に指導するのは私共でなくて誰が出来ませう、この點大いに自重してかゝらねばならないと思ひます。往々にして觀る、先生對母親、、、(保護者)の様な氣持では容易にその實を擧げることは出来ないと思ひます、形の上でなく、心持ちの上にもつと親しさを持つて家庭と密接な關係をはかり、保護者に充分な安心と信頼を與へて後、家庭教育の指導を心がけて行くべきだと思ひます。

あまりに抽象的な考へをのべてしまひましたが、要するに私共保育者が此際、はつきりした信念を持つて、今までの保育の實際を反省し、再検討した上で、體驗したいいろいろの事實を科學的に系統立て、見る事が必要だと思ひます、そして毎日の保育の反省から一つ、具體的な實踐問題を見付けることだと思ひます。

たゞへば遊戯の一項目をこつて再検討しただけでも澤山の反省材料は見つけられると思ひます、まづ今までの材料が、、、方法が、、、幼児の體位向上に、生活訓練に、

されだけ効果的であつたか?、又幼兒生活の生命さする自由遊びとどんな關連を持つて居たか?大いに反省して見る必要があると思ひます。國民學校體操教授上の注意に「躡姿勢、其の他訓練の効果を、日常生活に具現せしむること」さのべられてある事が保育の上にも大いに考へねばならない事と思ひます。唱歌にしてもたゞ唱ふことのみにとつてゐる傾きは御座いませんでせうか、中には行き過ぎた發聲練習や(自然を無視した)リズム遊び等に陥つてゐるはせぬか考へられるやうな所もなきにしもあらずといふ感じも御座いました。……國民學校藝能科音樂教授上の心得の一つとして「音に對して出来るだけ耳を傾けて注意するやう習慣づけること」さあります事も幼兒の音樂教授上心得ておくべき事だと思ひます。ここに幼兒生活「音」は特別の關係を考へて日常生活に、遊びに取り入れて行き度いものも考へてをります。其の他觀察、手技、談話等、同じ様な氣持ちで再検討して行つたならば新たに生れる國民學校の教育精神を自ら一致することになると思ひます。國民學校の教育が生活から出發すべく、すべての教育方針が立てられて、又各教科相互の關聯に充分な考慮をはらつて教授されるのでありますから、幼稚園としては尙更この點充分考へて各保育項目の關聯をはかつて行かねばならないと思ひます、と同時に小學校低學年の各教科にもある程度

の聯絡をはかつてかゝるべきだと思ひます。國民科修身（一）、幼稚園の躰、同國語（二）談話、理數科理科（三）觀察、同算數（四）、生活訓練（五）、體練科體操（六）遊戯、藝能科音樂（七）唱歌、藝能科觀（八）察、體練科體操（九）遊戯、藝能科音樂（十）遊戯、藝能科

（工作）（十一）手技等、充分考慮し心得ておかねばならない問題が澤山あると思ひます。それには來年度實施される小學校の一年生にどんな材料がどんな方法を以て與へられるかも研究しておく必要があるのでは御座いませんでせうか、今度の小學校改革がやがては保育の義務制にまで發展して行く様祈りつゝ保育者としては、今から保育の内容を再検討しておく必要があると思ひますが、喜びにたえない。

今國家は精神的にも身體的にも底力のある「強さ」を以つて滅死奉公の念にもえた第二國民を要求してゐる時で御座います。國民學校に於てはこの第二國民を育成すべく教育の改革が叫ばれ、我國固有の教育方針（一）内容を確立して來年度よりその教育改善が行はれるので御座います。幼稚園（二）として此際、我國固有の（我國独自の立場から考へた）保育方針（三）内容を確立して、幼児ながらの強い精神力（四）肉體力（五）を養つて、皇國民の基礎的鍊成の礎石（六）となすべく努力して行き度いものと思ひます。しかし再度心しておかねばならないことは「鍊成」（七）といふ言葉を考へ過ぎて、すべてに行き過ぎた保育をせぬ様、どこまでも幼児期の保育であるといふ事を常に念頭において團體訓練に、躰に、その實踐を強化して行き度いもの（八）を考へて居ります。

十月三十日の教育勅語換發五十年の記念日に當り、文部省は教育關係功勞者總計五千四百八十餘名を表彰せられた。

我が幼児教育界の先輩も數多表彰の光榮に浴されたのであるが、本誌發行までに全國的にそのお名まへを正確に知り得ないので、こゝにお知らせ出來ないのを遺憾とするが、喜びにたへない。

本會は謹んで、この度表彰の榮をかり得られた方に對し、心からお祝ひの意を表さしていただく。

日本幼稚園協會

あたらしいものへ

——國民幼稚園のこころ——

K · S

新らしい、云ふことは何かうれしい氣持を誘ふ。希望を起させます。

同じ場所にあり、同じ仕事の中にある、常に新らしい氣持を失はない云ふことは、難しいことだと思ひます。新しく稚い保姆が、子供の勢におされ氣味ながら、眞剣に新しい仕事の世界の扉を明けて這入らうとする姿は美しく、自分もその頃を考へ合せて、十年近くも過ぎた今の、さかく情性に流れ易い毎日に情ない思ひがして、新しいものは總べて美しく力強い様な氣になつてしまつたり致します。

しかし新しいものは單に新しい爲によいのではなく、新しさからくる新鮮さ、新しさが與へるいきいきした生活意慾が尊いのでせう。古さからくる豊かさに、この新鮮さを加へたものを、子供らとの毎日に充分用意して置き度いものと思ひます。

新しさ、云へば、この頃の毎日の新聞にこの新しい云ふ字の何と多いことせう。何か新しいものがやつて來

る云ふことを、國民の誰もが豫想し、期待してゐるのを感じます。

近衛内閣が生れて、あらゆる方面に新政治體制が布かれ様としてゐます。政治云へば政黨の動きのみ考へられた今迄と異つて、八百屋も、魚屋も、裏通りのおかみさん迄が政治云ふものに身近なものを感じはじめたに相違ありません。私自身も、これ迄にない關心を持たずにはゐられなくなりました。そしてそれは、子供らへの教育と政治や國家云ふものへの密接なつながりをも考へさせずには置かないのです。又それは、勢ひ幼児教育の國家的重要性をも確認させてくれます。

教學の刷新がさげば第一に國民學校案が具體化し、いよ／＼明年度から實施される云ふことになります。私も隣家の小火位には少々うらたへる氣持にもなり、ほんやりしても居られない氣持にもなりました。小學校の教育に新しいものがやつて來るまで、たしかに私達はぼんや

りしてゐることは出来ない氣持でした。しかし小學校の先生達でさへまだよくのみ込めない様なわけですから私のがみ込めなかつたのは勿論でした。そこへ文部省の夏季講習です。まづはせ參じて、倉橋先生のお話を承りました。そして、喜び、安心し、不安になり、希望をもつて歸りました。國民學校に於ての方法の強調點は今迄幼稚園でして来たこと、幼稚園では理論根據こそ異なれ今迄立派にやつてゐたことだつたし(果してやつてゐた幼稚園ばかりは云へないのは残念だが)その教授の方針に至つては、倉橋先生が、これも、これもその都度扇子をテーブルにトントンおたつきになつた通りに全く幼稚園でこれ迄試験済みのことばかり、私は少々此處で喜び安堵したのでした。

小學校の低學年の授業は云ふものが幼稚園との間に大きなギャップを持つてゐたことは明らかです。そして幼稚園は小學校とは、倉橋先生の仰云つた様に、全く偶然的關係でさへあつたのでした。低學年に今迄決して許さなかつた統合教授がゆるされ、學科を主にした抽象的分科的な主智的教授が、國民鍊成の一途に歸せしむるは云ふ方向の下に具體的に非分化的になされることは、日本の子供らへの大きな福音であると共に、幼稚園と小學校との聯絡にも全く喜ばしいものがやつて來たことを感じて嬉しくなりました。

それにつけても、幼稚園が今迄の保育形態に於て既にそれをなして居たこと云ふことで安心してよいでせうか。否、大いに否は云はねばなりません。國民鍊成の國家機關としての幼稚園として、更に新らしい出發をしなくてはならぬものがたくさんあるだらうと思ひます。實際の方法に於て國民學校の方法を既になして居たこと云ひながら、その心に於て忘れてゐるものがあつたら佛つくつて魂入れずになつてしまひます。國民幼稚園！倉橋先生の教へて下さつたこの名稱は、國民學校の言葉の上でも近きを覺えさせてうれしいものです。フレーベル先生が、一人一人の子供の中にある人間的自發性から育て上げたあの幼稚園にも、國家教育者としてのフレーベルを再認識出來、そのドイッチェーキングダーガルテンに云ふ名にも國家意識を認めることが出来るは倉橋先生が云はれた様であつたけれど、皇國のをさなご達を育て上げる我國の幼稚園には、日本でなくては持つことのない「日本の國民幼稚園」を私達はこしらへ上げたいものです。

それにしても、子供は何處でも、何時になつても子供です。新體制の波があらゆる方面に及んでもお伽噺を面白がり、鬼ごつこを喜び、時に喧嘩をすることに變りはありません。全體主義を誤つて一齊保育主義になつても困るし、個人主義は絶対に排しても個性的であることはあく迄必要

なごだと思ひます。國家的であることは望んでも鎖國主義を教へたくはありません。

國民の基礎的鍊成をするに、興國の道を修得せしめるに、難しい言葉をばかり頂戴するに、幼い子供を前にして少しまご／＼してしまひさうなのですが、ごにかく實際の子供の生活に於て、保姆自身が今の時局を認識し、明瞭な國家意識を持つて、眞劍に進んで行くのでなくてはならないのでせう。

國民學校に於ても、制度や内容よりも、最も根本的な問題は教育者に人を得るにあり、教育者の資質向上であるに云はれてゐますが幼稚園に於ても随分それは重要な問題と思ひます。教育の刷新が、これ迄になく國策上の重要問題として取り上げられてゐる今、この機をはづさず、制度も内容も共に幼児教育界を充實させなければなりません。それにつけても保姆の一人一人がその方面に迄意を用ひる様になり度いものと思ひます。保育所令も出來、幼稚園令も、より完全なものになり、これはひゞつものものになつてもよいのではないかと私は考へるのですが、保姆の養成機關もうんご充實させて頂き度いものです。一ヶ年位では通りいつべんになり易く、これでは國民鍊成もなご／＼容易ではありません。厚生省邊りの乳幼児保健運動と共に、ごん／＼よい保姆をこしらへるにせう。ご云つて、もう

出來てしまつた(ご申しても私等半分程でせうか)經驗者である私達も適當な方法で大いに再教育をして頂かないご、國民學校にせつかくよい連絡を持つ様になりながら幼稚園がおいときばりをされてしまはないごも限りません。

子供らご幾年か一緒にあつて、時々私は指導精神(子供のではなしに自分自身の)を失ひかけては狼狽し、自信を失ひかけたりしました。

ある時は教育學的な取り扱ひにのみ満足し、ある時は文化への高さをのみあてにしました。しかし今、歐洲の雲は飛行機の爆音にごばされ、今迄の所謂文化は崩れて行かうごしてゐます。自由主義の衣に裝飾の様にいつてゐた文化は勿論塵埃の様にごび散つて行くでせう。それ以上の高いもの、より深いものを、私達は、見出して、そこへ子供を引き上げ、引き延ばし、次代の光りを彼等が放つごごの爲に、私達の血を肉を魂をすりへらすごごに、日日新鮮な努力を惜しまないで行き度いものご切に願つて居ります。

佳作 兄弟熊

佐々木 敬太郎

雪やこんこ あられやこんこ

降つてはくすんく積り

山も野原も綿帽子かぶり

枯木のこらす花が咲く

皆さん、さうです。

きれいでせう。まつ白な綿のやうな雪が、緑の松の木の枝々にこんもり積つてゐますね。東のお山の上に大きいお日様がきら／＼出て来るさ、お山もきら／＼松の木もきら／＼まつ白にかゞやいてゐます。あつちのお山もまつ白、こつちのお山もまつ白、むかふのお山もまつ白でそのまた奥のお山もまつ白の白んぼです。その白んぼお山の奥の奥の又ず／＼奥の白んぼお山に、まつ黒な洞穴が一つあります。まつ黒な洞穴の中へはいつてだん／＼奥の方へ行くさまつ暗になつてその奥にまつ黒な熊の子が三匹クーン／＼／＼／＼おねんねしてゐます。お兄さんの熊の子がクーン／＼／＼おねんねしてゐるさそのそばにお姉さんの熊の子がクーン／＼／＼おねんねして又そのそばに弟のちび熊公がクーン／＼。三匹が丸くかたまつておねんねしてゐます。三匹の子供の熊の子の側にお母さんの親熊がグーン／＼／＼おねんねしてゐます。そのお側ではね、お父さんの大黒熊がグーン／＼／＼おねんねしてゐます。

父さん熊ねんね いびきをたてておねんね

何見てねんね 春の小川の夢見てねんね

さあ、皆さん、何の夢を見ておねんねしてゐるでせう。きつて春の暖かいお日様の夢を見てゐるんでせうね。こころがね。お日様がお山の上からボカボカボカ／＼とやさしいお顔をお出しになつて春のお知らせをするとお山の雪がだん／＼と解けはじめでチヨロ／＼チヨロ／＼と谷間へ流れて來ます。そうすると解けはじめた雪の下からビヨ／＼とお顔を出した露の芽がグ／＼と伸び出して來ます。あつちの方にもビヨ／＼とつちの方にもビヨ／＼、ビヨ／＼、ビヨ／＼、ビヨ／＼。

するさね。今迄おねんねしてゐたまつ黒々のちび熊公が第一番にウーンとお目々をさまして両方の手々を大きく伸ばしました。そしてね。お側におねんねしてゐたお姉さんの熊の足をグッとおしました。とお姉さん熊がウーンとお目々をさまして両方のお手々を伸ばしてお兄さん熊のお腹をグッとおしたんですよ。とお兄さん熊がウーンとお目々をさまして両方のお手々をぐつと伸ばしました。そしてお母さん熊の胸のミところをグッとおしたんですよ。とお母さん熊がグーンとお目々をさまして、お父さん熊の頭をきしん／＼とおしましたので、お父さん熊は大きなお目々をぐつとお開きになつて「アアアアッ」お大口をあいてきしん／＼両方のお手々をお足で洞穴の底を叩いたのでその音があつちのお山に「ウーン」おつちのお山に「ドーン」おびびき渡りました。

「おや／＼、暖いなく。皆さうした。起きたかく／＼とお父さん熊が申しました。

「はいさつきからお目々をさましてお父さんの起きるのを待つてゐたんですよ。ハハハ」
ちび熊公が笑ひます。

「あーつと、さうかい、ではみんなで露の芽を探りに行かう」お母さん熊が申しました。
そしてみんなで

お手々つないで、お山を行けば

ニコニコお日様、ぼか／＼照つて

ここは雪消え 春の山

「ご歌ひながらお山を下りて行きました。

「お父さん、お母さん。ほら／＼こつちには露の芽がたくさんあるよ。こつちへお出で」
 「いって／＼走つて行きます。」

「おや／＼、あぶないつたち。あんな遠い所まで下りて行つてしまった。仕方のない子だね」
 お父さんもお母さんも露の芽をこつて食べ、谷の水を呑み／＼だん／＼下りて参りました。お空には春のお日様がこの楽しさうな熊さん達をに／＼して眺めてるます。

谷間の水はチョロ／＼／＼流れて、あつちの方から来る水ミ、こつちの方から来る水ミ一緒になつてチャブ／＼／＼流れてるます。そのチャブ／＼水が横の方から流れて来た水ミ一緒になつて、チャブ／＼／＼チャブ／＼だん／＼多くなつて大きな／＼なお川になつてまゐります。ふ／＼其の川の中を見るミチャブ／＼／＼チャブミ泳いで行くお魚がありました。鮭です。

「やつ。お母ちゃん、僕あの鮭をこつてくるよ」ミちび熊公がチャブ／＼／＼川の中へ入つて行つて大きな鮭の背中を小さなお手々でチャブ／＼叩いたが鮭はちつ／＼も驚きません。

「ちびさんは下手ね。あたしがこりませうよ」ミお姉さん熊がぼちや／＼入つていつてポチャ／＼叩きましたが、それでも鮭はちつ／＼も驚きません。

「やあ、みんな下手だね。僕がこつてやらうよ」

「ミくんはお兄さん熊がチャボ／＼はいつていつてチャボンミ叩きましたがそれでも鮭はちつ／＼も驚きません。」

三匹の熊の子供さん達が残念さうに見てるミ今度はお母さん熊がチャボ／＼はいつて行つてチャボンミ叩いたが鮭はちつ／＼も驚きません。大きな脊びれを水の上に出して浅い川の中を

泳いでゐます。

今度はお父さんの大熊がバヂャ〜バヂャ〜はいつて行つて急に大きなお手々でバヂャンミ叩いたので、さすがの鮭もさう〜動かなくなりました。

「萬歳ッ 萬歳ッ」

みんなお手々を叩いて喜びました。

「お父さんはお強いね」

ごお母さんが申しました。

「さあ、みんなで鮭をかついで歸りませう。おそくなるさ暗くなつて歩けませんからね」

ご申しましたので、三匹の子熊さん達はぎつこいしよ〜鮭をかついで歩きました。

其の時、さつきから側の木の枝にこまつて見てゐた雀の子が三羽チュチュンチュンチュクチュンと笑つたので、ちび熊公は怒つてクーンと鼻をならしました。

そしてだん〜お山の方へ登つて行きました。木の枝では三羽の雀がだまつて熊さん達を見てゐました。

その時、お山の麓の青い青い野原の路を幼稚園の子供さん達がお手々つないでこんこんとごんごんはねて來ました。

「やあ、やあ、熊の子が行くぞ」

「あれ、あれ、熊の子だ熊の子だ」

「さ〜へ行くんだらう」

「あ、金時さんの足柄山へ行くんだらうよ」

足柄山で 金時は

熊ごお角力ごりました。

熊はごろりご負けました。

足柄山で金時は

お山の大将になりました。

ごお手々を叩いて喜びました。

熊のお父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、弟さんたちは、大きな鮭を肩にかついでばかり、お春のお日様の照る山道をだん／＼登つて行きます。たのしい／＼お山のお家へかへつて行くのでせう。

フレールベル賞入選童謡

佳作 電 信 柱

若 宮 梅 子

一 頭に白いお帽子かぶり

すらり／＼竝んだ電信柱

暑いお陽様照る夏も

冷い風の吹く冬も

いつもきれいに立つてゐる

二 頭に白いお帽子かぶり

すらり／＼竝んだ電信柱

両手に雀をこまらせて

お隣同志せいくらへ

これが一番高いかな

佳作
月

森
田
明
子

はんかけお月さん きこへ行く
はんぶんさがしに 山に行く
山には木の實やさんしよの木
月のかげらは みあたらぬ

はんかけお月さん きこへ行く
山にないから 川に行く
川にはぎぜうや ふなばかり
月のかげらは見あたらぬ

佳作
蓑
蟲
小
蟲

坂
本
レ
ツ

一 蓑蟲小蟲お風に吹かれ

柳の枝でゆらりゆらり
ブランコしてる

二 蓑蟲小蟲雨降れば
お傘もさゝずにびつしよりぬれて
ぢつとしてゐるよ

三 蓑蟲小蟲お雪が降れば
白のお帽子横つちよにかぶり
すましてゐるよ

四 蓑蟲小蟲お日様照れば
お服の衿に顔のぞかして
お早うするよ

幼児の 母



昭和十五年

十一月

紀元二千六百年

今月十日には、紀元二千六百年式典が
舉行せられ、翌十一日には、同じく奉祝
會が催されます。兩日共、宮城外苑に
天皇、皇后兩陛下の行幸、行啓を仰ぎ奉
り、國內は素より、海外よりも集ひ、列
参列者によつて、萬歳を壽ぎ奉るのであ
ります。

今年には、年の始めから、紀元二千六百
年の祝ひに充ちてゐます。時局下、華美
壯麗な方法による祝ひ方は差控へられて
ゐますが、その喜びは國に充ち渡つてゐ
ます。それは、幼い人達の心にも、丁度
小島を圍つて打ち寄せる快い波の様に、

必ず感じられてゐることでせう。是非感
じさせる様に、家々でも意を用ゐて來た
ことでした。

たゞ、今までは別に此の日といつて、
特にそのための祝ひの日がありませんで
した。そのために、家々でも、特に幼い
人達も喜び祝ふ様な形で、家庭に於ける
紀元二千六百年奉祝をする機會が無かつ
たかも知れません。少くも、全國の家庭
が、日本の家庭として、この祝ひを共に
する日はありませんでした。

十一月十日、十一日、こそ、その日で
あります。

紀元二千六百年家 庭奉祝要項

建國祭本部

一 宮城遙拜

國民は心からなる慶祝の遙拜を致しま
せう

二 神詣り

國民舉つて皇威宣揚を祈願し、銃後國
民としての心の弛みを戒しめ、天堯翼
賛の誓ひを固めませう。各自でお詣り
する事は素より結構ですが、隣組、隣
保班、町内會、部落會、團體等に依る
參拜も意義ある事と思ひます。

三 お祭り

各家庭では神棚や佛壇を淨め、お供物
をして一家揃つて拜みませう

四 お祝ひ

神佛に對しては飽くまで嚴肅にせねば
なりません、その一方家庭のお祝ひ
は出来るだけ楽しいものに致しませう

幼稚園でしてゐるこゝろ

遊 戯

倉 橋 惣 三

「私は幼稚園へ参ります度に、お子さん方の遊戯をしてゐらつしやるのを拜見するのが、何より楽しみでございます。」

「それは結構で。」

「ほんとに、お可愛らしいのでございませぬ。」

「可愛らしいですよ。」

「それにお上手で。」

「さあ、それは……。」

「あれまでお仕込みになるには、先生方の御丹精は容易ではございませんでせう。」

「別に、仕込むと申して……。」

「よくまあお覚えになつて、皆さんよくお揃ひになつて。」

「そうですね。さすが子どもで。」

「ほ、ほ、ほ。おとなでは却つてね。」

「だが、別に教へ込んで上手にするといふ譯ちやありませんですよ。幼稚園は舞踊稽古所ちやありませんからね。先生達だつて、踊のお師匠さんぢやないのですしね。」

「それは、そうですね、でも、時々なさるおさらひの時なんか。」

「おさらひ？」

「これはついその、宅の娘達が藤間の方へ次々行つてゐましたもので、おさらひなんて申しましたが、大勢の人を呼んでお見せになります、あの大會の時なんかには。」

十一月の獻立

栄養研究所 佐々木理喜子

家庭でパンを作りますには、パン種や天火のいらぬ蒸しパンが一番よろしいと思ひます。之れは御子様御辨當、家庭の代用食におすゝめ致します。パンは水分が少い爲に飲物を添えますが、此の代りに清汁を工夫したスープ様のものないたゞきませう。分量は大人になつてゐますが五歳—七歳の方は此の約半分を召上つて下さい。此は佐伯矩先生が御考案になりましたのを教へいたゞきました。

(一) 榮養パンとスープ (大人用、五歳七歳は半量)

材料 メリケン粉一三〇瓦 黄粉一〇瓦 馬鈴薯五〇瓦 人参二〇瓦 櫻海老六瓦 砂糖二〇瓦 重曹一・五瓦 食酢二〇cc (大匙二杯) 水六〇cc (茶呑茶碗に七分目位)
春雨(豆麵)一〇瓦 馬鈴薯二〇瓦
アサリの剥身一〇瓦 モヤシ一五瓦

「公會堂ですか」

「はあ、毎秋によく方々で遊ばします」

「あれですか。あれは幼稚園ちやありませんよ。見せものですよ。遊ばしますとおつしやつたが、ほんごに、主催者が遊ばしますんで」

「でも、子どもは大喜びで。宅の親戚の子なんか、あれを楽しみに、その日は何んですか……」

「何んですか」

「ほゞゞゞ」

「薄化粧でせう」

「前夜から」

「美容院へですか」

「まさか」

「いやになつて仕舞ひますねえ」

「あれは、いけませんことでせうか」

「さあ、踊の師匠さんがするのを、何んの彼んごはいひませんがね。幼稚園のすることちやありません」

「でも、幼稚園でふだんしてゐらつしやるのと同じではございませんですか」

「大へんちがひますよ。全く別物です

よ。自分で遊戯してゐるのと、見せるために遊戯してゐるのと、全然別ですよ」

「そりやそうかも知れませんが、人に見られてゐると思ふと、一層張りあひもつきませう」

「張りあひなんか、外からつけなくたつて、自分で一ぱいに楽しく遊戯するのが子どもなんです。それどころか、人に見られてゐると思ふだけ、却つて氣に隙き間があるといつた譯のものです」

「藝術でございませうからな」

「藝術といへば、藝術に相違ないのですが、實は、たゞもう自分で面白い一方のことです」

「でも、あの優美な振りは、子どもながらに」

「大して優美でもありませんよ、それはね。からだの楽しい運動動作は、自然リズムになり、リズムは美しいものです、それ以上別に、拵へた美ではありませぬ。それに、この頃の、幼稚園遊戯は、優美といふよりも、元氣活潑なのが、多くなりましてね、しやなり〜よりも、

油二瓦 以上で蛋白質二五・二瓦、温
量七三九カロリー

作り方 以上の分量で作りますと他に副食物の必要はありません。黄粉と干海老はパンの栄養價を高める爲で、馬鈴薯を蒸して遣したのを加へると、パンが彈力があつて軟く、冷めてからも硬くなりません。重曹と食酢は「ふくらし粉」の代用に使ひます。先づメリケン粉、黄粉、干海老(ごつと炒つて摺鉢で粉にする)重曹をよく混合します。次に水と酢を合せ、此の中に砂糖と馬鈴薯、人参を生で刻んだ物、鹽少量を加へ、かたまりの無い様にしてメリケン粉を入れよくこねます。此れを四つ位に丸めて、煮立つたセイロで十五分二十分蒸します。濡布巾を下に敷き、蒸氣の蓋の下には乾いた布巾をのせます。

スープは清汁式に煮出汁を作り、もやし、アサリの刺身等を油で炒めて加へ、味は鹽と少量の胡椒、醬油で調へ、馬鈴薯を蒸して遣したのを加へ、ドロリとしたスープにします。春雨は直ぐに軟くなりますから煮立つた中に入れます。

ぐんぐんの方が、澤山採り入れられてゐます」

「あべれるんでございますか」

「暴力遊戯といふ譯ちやありませんが、まあ、強力遊戯とはいへませうかね。花

あにいゝ、たわああむうれ、ちちんちんちん流でなくて」

「先生、なか／＼お上手であらうしやいます」

「はゝゝゝ。おとなの遊戯としては、あれもいゝです。こわばつた筋肉を柔軟にするためにね。はゝゝゝ。しかし、子どももの筋肉には、あれでは力がはいりませんよ」

「そうしますと、情操の方は、幼稚園の遊戯は情操教育のためだとか、ごなたからか伺ひましたが」

「力一ぱいの強力遊戯だつて、立派に情操は養へますよ。花に戯れる蝶々の羽のやうな、繊細な、ひら／＼してゐる心持だけが情操ちやありませんよ」

「それは男の子には、それでいゝでせうが、女の子には」

「いゝえ奥さん。私はかう申したからつて、男の子にだつて、優美感情も養ふことを忘れてはゐらないのですよ。同様に、女の子だつて」

「鬼に角、さういふ遊戯は健康によろしいでせうが」

「そうです。が、健康は即ち情操の正しい基であることを、いつしよに考へて下さいよ」

「え」

「情操ぬきの健康第一が體操であつたり、健康ぬきの情操第一が遊戯であつたり、そんな考へ方が、抑も間違ひなんです」

「なるほど」

「理窟ちやありませんよ。うんと力を入れて、頬をまつかにして、額に汗を滲ませて、一生懸命の強力遊戯をしてゐる時、幼児の心が、ごんなに、美しく、情深く、純に、もつと強いへば、け高い程になつてゐるでせう。幼稚園の遊戯は、そこを主にしてゐるのです」

文部省推薦圖書の中から

○幼児國民エホン 金子茂二劃 奥田準一文

ヒロロニイチヤン (金拾錢)

ミコチヤン ナコチヤン (同上)

オソラハ ヒロイ (同上)

東京神田東福田町金井信生堂發行

○カタカナ エバナシ 高橋五山編 日向マコト畫

三匹ノタマ (金拾貳錢)

オサルサン (同上)

東京神田神保町一丁目共同書籍株式會社發行

○ミクニエホン 市橋善之助編 高橋春雄畫

エサガシ・アイウエオ (金貳拾錢)

東京神田小川町湯川弘文社發行

○ダイヤモンドエホン 木村みさを畫 オトモガチ (金拾錢)

東京下谷御徒町泰光堂發行

ハイ デイ

(第二十八回)

津 田 芳 雄 譯

ペーテルは、もう恐ろしくつて、石のやうに立ちすくんでしまつた。今日いちんちの數々の出來事の揚句なので、精も根も盡き果てて、ただ「もう駄目だ」思ふばかりだつた。髪の毛は一本一本逆立ち、眞蒼な顔は怖ろしさにひきゆがんだまま、樅の木の後から出て來た。

「さあ、元氣を出して」

おばあさまはペーテルが羞づかしさで固くなつてゐるのだこばかり思ひ込んで、早く打ち解けさせてやらうと氣を使ひながら、云つた。

「ね、遠慮しないで仰しやい、あれは、あなたがしたのでせう？」

ペーテルはもう、目も上げられないで、おばあさまが指してゐるものも、見もしなかつた。それ

でも、小屋の曲り角のまゝころでは、おぢいさんが灰色の眼を光らせて自分を見据え、その横には、誰よりも怖ろしいフランクフルトのお巡りさんがひかえてゐるこゝを、よく知つてゐた。手足をがたがた震はせ、肩をぶるぶるさせながら、低い聲で呟いた。

「はい」

「さう。だけき、さうしてそんなに怖がつてるの」

「だつて——だつて——すっかり粉みぢんになつちまつて、もうくつつけられやしないんだもの」
聲もしきろに、膝はがくがく震へ、立つてゐるのもせいぜいだつた。

おばあさまは、おぢいさんのそばへ行つて、

「可哀さうに、あの子は少し氣がへんなのぢやないでせうか」

「不憫さうにたづねた。」

「いやいや」

おぢいさんは受け合ふやうに、

「椅子を吹き飛ばした風さいふのは、實はあのぢぢやつたのですわい。それで、うんじ置きをされるものと思つて居りますのぢや」

「云つた。おばあさまは、信じられない氣がした。見たところ、ペーテルはそんなにわるい子供なのやうでもなく、まして椅子のやうに是非とも要るものを、わざわざこわさねばならないやうな理由なき、ある筈がないと思へるのである。でもおぢいさんは、はじめから怪しいと睨んでゐたことを口に出しただけの話で、クララを見るペーテルのうらめしさうな眼付きや、そのほか数々の仕打ちを思ひ合はせれば、いかにもペーテルのやりさうなこゝなので、おぢいさんは確信をもつてきつぱり云つてのけたのだつた。けれども、おばあさまは熱心に諫めはじめた。

「いいえ、いいえ、お仕置きはもうよござんすよ。あの子の身にもなつてやれば、無理もないの

ですよ。わたしたち大勢で、フランクフルトからやつて来て、みんなしてあの子のたつた一人の遊び相手の大事のハイディをまつてしまつたのですものねえ。長い間、ひきりぼつちにされて、毎日憤慨してたのですよ。たうさう腹立ちまぎれに、仕返しをしたのでせう——もちろんそれは、馬鹿なこゝには違ひないのですけれど、でもわたしたちだつて、腹立ちまぎれになら、する分馬鹿なこゝもし兼ねないのですからね」

さう云つて、まだ震へてゐるペーテルのそばへもぎり、樅の木の下の腰掛けにかけて、やさしく呼びかけた。

「ここへいらつしやい。少しお話ししたいこゝがあるのですから、さう震へてゐないで、わたしの前へ来て、ちゃん立つてごらんなさい。あなたは椅子をつき落して、めちやめちやにこわしてしまひましたね。それは大變よくないこゝで、あなたもよく思ひ知つたでせう。お仕置きを受けねばならないこゝも、ちゃん知つてゐますね。だからそれを逃れようとして、一生懸命に隠さうしてゐますね。でも、ここが肝心なのですよ、ペーテル。わるいこゝをしておいて、誰にも知れない

ご考へるのは、間違ひです。神様は何でも見、何でも聞いていらつしやるのです。わるいごころをし、た人が、それを隠さうごするご、神様は、わたしたちが生まれた時からわたしたちの中へ住まはせてお置きになつた小さな番人をお起しになります。平生はその番人は眠らせてあるのですが、わたしたちがわるいごころをすれば、すぐに針を取つてわたしたちを刺しはじめ、一刻も體を休ませてくれません。『今に見付かるぞ、曳き出されて仕置きをされるぞ!』と、しよつちう突つ付くので、こわくて心配でたまらないのです。あなたも近頃、そんな氣持がしませんでしたか? ペーテル」

「それから、あなたはもう一つ思ひ違ひをしてゐますよ。ひごにわるいごころをしてやらうご思つたごころが、却つて常人には、なによりの仕合せになつたごころです。クララは椅子がなくなつたけれど、さうしてもお花がみたかつたので、歩くおけいごをはじめ、それから毎日だんだん上手に歩けるやうになりました。このままずつごころ

にゐれば、寢椅子があつた時よりも、もつご何度もお山へ行けるやうになるでせう。ですからね、ペーテル、わるいごころをしてやらうご思つても、神様はその中からよいごころを引出して下さるので、わるいごころをした人だけが、いつまでも苦しまねばならなくなるのですよ。わたしの云つたごころが、よくわかりましたか。わかつたら、よく覚えてゐて、わるいごころをしさうになつたら、針を持つた小さな番人のごころを思ひ出して下さいよ。いつまでも覚えてゐてくれますね。」

「はい、覚えてゐます」
ペーテルはまだ惜げてゐた。おぢいさんのそばには、依然としてお巡りさんがひかえてゐるから、この先きまださうなるごころやら、わからないからである。

「それ下なにもかもすみました」
おばあさまは云つた。
「それから、フランクフルトの人たちのよい思ひ出になるやうに、なにかあなたに上げたいご思ひますが、何でも欲しいものを云つてごらん下さい。何が一等欲しいの?」

ペーテルは頭をあげ、目を丸くしておばあさま

の顔を見た。今の今まで、何か怖ろしいこゝが起るのだと覺悟してゐたのに、この人は、何でも欲しいものをやらうと云ふのである。ペーテルの心は、ぐる／＼渦巻きを巻きはじめた。

「ほんたうなのですよ。フランクフルトの人たちのよい思ひ出さして、又、その人たちはあなたのしたこゝをもう何さと思つてゐないさいふしるしに、何でもあなたの一等欲しいものを上げるのですよ。わかつたでせう？」

もうお仕置きはないのださいふこゝを、目の前にゐるこの親切なおばあさまが、自分をお巡りさんから助けてくれたのださいふこゝが、やつこ今ペーテルにわかつて來た。するに俄かに山のやうな重荷が、すつこ取り除けられたやうな氣がした。それから、わるいこゝや、云ひ付けられたままで果してないこゝは、何もかも今すぐ云つてしまつた方がよいのださいふこゝまでわかつて來たので、思ひ切つて云つた。

「紙きれも失くしちやつたんです」

おばあさまは、しばらくは何のこゝやらわからなかつたが、やつこ電報のこゝを思ひ出し、やさしく答へた。

「よく云ひました。わるいこゝをしたなら、決して隠すではありませんよ。正直に打ち明ければ、なにもかもよくなるのですからね。それで、何が欲しいのですか」

ペーテルは、どんなものでも欲しいものもあらへるのだと思ふこゝ、もう目まひがしさうになつた。マイエンフェルトの町では、一年に一度、賑やかな市が立つて、ぎら／＼飾り立てた美しい店がならび、ペーテルはいつも、一つだつて買へる當てもないのに、何時間も立ちつくして眺めてゐたこゝを思ひ出した。財布の中には一錢銅貨が一枚しかないのに、そこに並んでゐる欲しい玩具は、みんな三錢もするからである。その中でも一等欲しいのは、可愛らしい赤い笛さ、圓い柄のついたナイフだつた。あの笛を吹き鳴らして山羊さをも呼びあつめたら、こんなに素晴らしいだらう、だけさ、あのナイフさへあれば、はしばみのしげみに這入つて、いろんな見事なものをこさへてやるんだがなあ……

ペーテルはそのごちらをもらはうかさなか／＼心がきまらないで、まだ考へあぐねてゐた。するに突然、すばらしい考へが浮んだ。あゝさうだ、

さうして來年の市までに、考へておけばいゝぢやないか。「三錢下さい」。もはや何の迷ふところもなく、元氣よくペーテルは云つた。おばあさまは笑ひ出さずにはゐられなかつた。「大して贅澤なのぞみでもないやうですね。ぢや、こゝへいらつしやい」

おばあさまは財布を出して、四枚のきら／＼光つた五十錢銀貨をペーテルの手のひらにのせてやり、なほ幾つかの銅貨をおきながら、

「すぐお勘定をして見ませうね。わたしが教へてあげませう。これはね、三錢を一年ぢうの日曜日の数だけ寄せたものですよ。ですから、これから日曜のたんびに、三錢づゝ使つていゝのですよ」「やあ、一生だつて使へらあ」。ペーテルは無邪氣に云つた。おばあさまはこれを聞くに、又笑ひ出した。おぢいさんさぜーゼマン氏も、その笑ひ聲に何事か話をやめた。

「ほんたうにねえ、ぢや一生使へるだけあげませう。遺言状の中に書いておきませうね。ちよつと聞きましたか、あなたも書いておゝきなさいよ。

——ペーテルにはその生存中、毎日曜日に金三錢也を支給す——つて。ぜーゼマン氏はおばあさま

からさう云はれるに、うなづきながら、一緒に大笑ひした。ペーテルは手のひらのお金をもう一度ながめて、夢ではないことを確かめるに、

「ありがたいなあ」云ひ、それから、勢ひよく飛んで行つた。今度は怖さのためでなく、うれしさに飛び立つのであるから、足をすべらせるやうなことはなかつた。心配も怖れも、今はすっかり消え失せて、これから一生の間、毎日曜日に三錢がもらへるのだから。

幼稚園をり紙童話

内山 憲尙著

自序の一節 (發賣所 フレーベル館 定價 壹圓貳拾錢)

……紙の人形——それが、子供たちにどんなによるこびの世界を作つてゐることだらう。どんなに楽しい世界を作つてゐることだらう。私は考へた。子供の世界は常に新しく、常に活躍し、すべてのものを生かしてゐるのに、何故に保育者たちは古いことばかりを繰り返してゐるのだらう。一枚の紙、一つの木片、それがどんなに幼児の生活を擴くことだらう。そこで、幼児に最も親しみのある、折紙を談話の上に應用したら、又一つの新しい世界が生まれるものではないからうかと思つた。早速、折紙を作つて園児に試みて見た、園児たちは意外によくこんでくれた。……

この序文でも解るやうに、幼稚園には本書は誠に適切なものと存じます。ぜひ皆様に御薦め致します。(編輯部)

國民學校と國民幼稚園

(三)

— 文部省講習會講述速記 —

倉 橋 惣 三

講義要項

- 一、國民學校教育の精神
國民普通教育の改革——教育審議會の答申——國民學校教育の本旨——「皇國ノ道ニ則リテ普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的鍊成ヲ爲ス」と
- 二、國民學校の教育方針と學科
國民學校の教育の目的の主眼點——國民學校の教育の方法の強調點——國民學校の教科
教育審議會の答申——小學校と幼稚園との從來の關係——幼稚園の國民教育上の位置
- 三、國民學校と幼稚園
幼稚園の史的考察
フレール¹の幼稚園——我國に於ける幼稚園——人文的、心理的、社會的——幼稚園の國民教育性——國民幼稚園
- 四、幼稚園と低學年との聯絡
從來の問題の檢討——從來の低學年と新低學年——教科の統合——綜合教授問題
- 五、幼兒保育者としての國民學校教科の研究
國民學校教科の教授要旨——國民科——理科——體操科——藝能科——實業科
- 六、我國幼稚園の將來
幼稚園の國民教育的充實——幼稚園の國民教育的普及——國民幼稚園の非階級性と多様性
- 七、幼兒保育者の責務と自重
幼兒保育者の責務——幼兒保育の目的内容と幼兒保育方法の特質——幼稚園と家庭——幼稚園保母の向上と養成——幼稚園保育者の自重

四 國民幼稚園

(一) 幼稚園の國民教育的認識

昨日まで國民學校のことをいろいろ考へました。或は國民學校を通じて今回の教育刷新そのものゝことを考へました。或は今回の教育刷新の本旨に基いて國民學校のことを考へました。それを元として幼稚園も亦こゝに新なる考を加へ來らなければならんのではなからうか、さういふお話にまで來たのであります。そこで昨日の終ひには一つの結論をしまして教育審議會の權威ある答申が幼稚園さういふ問題に就ても、師範學校、國民學校と同様に重要な用意を拂つて居られることを申しました。

殊に昨日讀みました教育審議會總裁の答申の言葉を、更に教育審議會特別委員會、委員長田所氏から細かに解説を下して居られますが、その解説に於きましては、愈々益々幼稚園重要な意味が徹底させられて居るのであります。そこにはいろいろの意味合ひが含まつて居ると思ひますが、私は昨日そこから最も重要な一つを抜き出しました。即ちこれによつて幼稚園さういふものが國民教育の必須なる要素として考へられるに至つたのであります。幼稚園が國民教育の上から、ある方がいふものであるさういふ位のは、前から常に言はれて居りましたが、この答申は、たゞさういふ意味に止まりません。折角國民學校を造つて新しき國民普通教育を施すに當つて、その就學前の教育が充分に出來て居るさういふことは刻下の急務である、斯う言つて居るのであります。これを私は幼稚園の國民普通教育上に於ける位置が、さういふ風に確立したさういふ言葉で昨日申上げました。これはお互ひにさういふ重大なることで、充分記憶し、又それが本當に具體的に制度化されて行くことを望む次第であります。同時に之れをもう少し實際化して眺めますならば、國民教育の謂はゞ本體でありますさういふ國民學校と幼稚園との關係の問題になります。從來の小學校と幼稚園との關係は稍々偶然的であり、或はある方がいふさういふ位であり、時には無くてもいふさういふことをいふ没分曉漢さへもあつたのでした。それと比べまして、今のやうなところから推定して行きますと、國民普通教育の本體であります國民學校と幼稚園との關係が當然必然のものになつて來る譯であります。斯ういふ意味で私は未だ誰にも使はれて居ない言葉であります、また勿論制度の

上にそんな言葉が許されて居るのではありませんけれ共、國民學校といふ言葉に於て少なくとも意識を新にされたこと並びて、國民幼稚園といふ言葉を謳つてみたいのであります。

(二) 従來の幼稚園に就て

然らば今までの幼稚園といふものはさういふ點に關して如何なる位置にあり、如何なる意義に置かれて居つたのであらうか。これは一應見返して置きたいことであります。その見返して見ますことの必要は、或る方は、何も今更教育審議會の答申を引出して、國民幼稚園なきといふ言葉を用ゐなくともいふぢやないか。日本の教育いづれか國民的ならざるものあらんや。幼稚園もまた當然そうである。斯ういふ大きな意味に於ける言葉をお用ゐるなる方もあるかも知れません。またそれを御自身の信念に移して自分はさうやつて來た。ミ斯う強く御主張になる方も少なくないでせう。否、恐らくこゝにおゐるでなりません皆さんが全部御同様の御信念であるといふことを疑ひません。併し、小學校も大にさうであつたと思ひますのに、それが國家の自覺に基きまして、新時代の推移に基きまして、改めて法制を改正し、名前を變へてまで、改造されることになつたのであります。幼稚園に就ても同じ譯でありますまいか。そこで少し歴史的に考へて見ますと一人々々の胸に持つ信念は兎に角致しまして、明治九年以來、日本の幼稚園は實際の表に現れたところではさういふ具合になつて居たでせうか。さういふことも考へて見る必要がこゝに於てあると思ふのであります。これはもう皆様が疾うに御承知のことばかりをこゝに引出すのであります。お話の順序上暫くそれを考へて見ませう。

(一) 幼稚園は少なくもその名前に於てはフレーベルに出發する。従つてフレーベルの幼稚園がさうした意味に於て如何なるものであつたらうか、尤もさういふことは、私としては、さうでも宜しいのです。日本の幼稚園はもう疾うに日本の幼稚園でありまして、フレーベルがさう考へたから、その因縁が始終我々に傳はつて居なければならんといふことは少しもないのであります。日本にしてさうでもないものではあります。幼稚園といふものを創めて立て、吳れた、あの大教育者の考の中に、今我々が幼稚園を國民幼稚園として見つめる點を、さういふ結びつきがあつたであらうか、なかつたであらうか、といふことは興味の深いことであるとも思ひます。この點につきましてはフレーベルの考を推定して見るだけのことです。ありますが、我々が問題に取上げたくなります點は、フレーベルが初めて幼稚園を創立しまして、そのさうやかな

る發達からだん／＼普及致しました時に、ドイツ「チェンダーガルテン」即ち「ドイツ幼稚園」といふ言葉を使つて居ります。このドイツといふ言葉を使つて居りますのは、或る意味に於てはドイツ全體に及ぼすところのいふ、幼稚園の普及を冀ひ、また意味する。さういふ心であつたかと思はれるところもあります。併しまた、一面にはドイツといふ言葉に附けて居るところに——單なる世界的幼稚園としないで——ドイツといふ民族意識が籠つてゐることを感じられるのであります。但し我々がはつきり考へなければなりません。これは、フレーベルの時代に於けるドイツは今のドイツとは大變に違なつて居ります。今では勿論ない。ドイツカイゼルダムが出来上つた後の状態とも違つて居りました。たゞ、そうした統一のドイツ民族意識は盛んに識者の内に起りつゝあつた時代ではありますが、纏まつた國家名稱としては未だ充分出来上つて居なかつたのです。つまりさうならなければならぬ時代であつたのです。そこでフレーベルの考は幼稚園そのものといふよりも、フレーベル自身としての愛國的なる考へを此の名に托したと見られるのです。殊にその晩年に於きましては、時代の趨勢と共に、フレーベルの頭にも、此のドイツ的なる心が熟して居つたのでありませうから、その心持からドイツ幼稚園といふ國家意識のあらはれてゐる言葉が用ゐられたのであらうといふことも思はれないではないのであります。そこでフレーベルその人に國民教育者としての意識があつたことをはつきり認められます。従つて、國民教育者として、自分の創設したる幼稚園を國民教育的本質のものとして完成しようとしたであらうとも充分認められます。殊にこれは私共がそう認めるといふだけではありません。この頃、ドイツの教育者はフレーベルが自分の國の大教育者といふことを再認識しまして、頻りにさういふ論法を用ゐてゐるのであります。ドイツ人から見ますと、澤山世界に偉い教育者がありますが、ドイツの教育者も澤山ありますが、國家意識の盛んになりました今日では、スイスのペスタロッチエを尊敬するだけではもの足りなく、フランスのルソーを尊敬するだけではもの足りなくて、自分の國の大教育者としてのフレーベルを高調する傾向が頻りに強くなつて居ります。その最も大きな現れとして、先般、日本に一年滞在しまして、その間いろ／＼に講演を行ひ、日獨文化關係の爲に力を盡されましたドイツの大碩學で大教育者であるところのスプランガー教授も亦、この點を大に力説して居るのであります。スプランガー教授は丁度この壇の上で「東京女子高等師範學校講堂」に女子教育者として、國民教育者としてのフレーベルといふ題で講演されました。その講演はフレーベルが幼稚園の教育者であることを元より根本として、然も、もつと大きな意味で女子教育者であつた。更にもつと大きな意味で國民教

育者であつたさいふこを説かれたのであります。

そこで、フレーベルの幼稚園そのものはさうかさいふこは後に譲りますが、教育者としてのフレーベルの信念には國民教育者としての自覺が充分あり、従つてその幼稚園も亦その魂の息吹がふつかゝつて居つたに相違ないさいふこに就ては私は疑はない。疑はないのみならず、この點に於てフレーベルに敬意を表することを忘れてはならんと思ふのであります。併しながら、それを是認した上で、更に次の二つの問題を感じるのであります。その一つは、フレーベルが幼稚園さいふものを思ひつき來つたところの初めの着想の由來に就てであります。そのフレーベルの着想はきの點にあつたかを見ます、私の考で誤りなければ、或は誤つて居りましてフレーベルに叱られるかも知れませんが、今日、日本の教育者が、國民教育を先づ考へて、そのために幼稚園が大事だと思へる順序は少し違つて居たと思ひます。違つて居たさいふこは直ぐ反對さいふ意味ではありません。皆さんは「違つて居る」言へば「反對だ」直ぐお考へになるかも知れない。殊に暑い時には、頭が疲れてさういふ即斷が行はれ易いのであります。たゞ、久留島先生は私とは違つて居るけれ共、反對ではない。違つて居るだけであります。即ち違つて居るさいふこは必ずしも一方を否定して居るさいふこではない。その時の意識の表現に於て、何處が特に注意されて居るかさいふこに差が出て來るのです。そこで、その意味に於きまして、フレーベルの幼稚園の着想には、國家を如何にせんさいふこが、その元の元にあつたらうことは確ですけれ共、直接には、幼児そのものを眺めて、その中にある自發性を教育的天才で發見して、それが元になつて幼稚園を造つたのであることは、更めて申すまでもない事實であります。この事は、少し纏め過ぎたやうな言ひ方になるかも知れませんが、言つて見ます、フレーベルは一人々々の子供に、田舎の、汚い漬垂らしの、行動言語粗野愚鈍であつたらうと思はれます子供にも、その中にある人間の自發性を發見してそれで幼稚園原理を立てたのです。然もその自發活動さいふものはフレーベルをして哲學的な發見でありますけれ共、これを更に當時の教育の傾向に基きまして、相當のさいふまで心理學的に解釋致しました。哲學的にさいふ言葉が少し堅過ぎますならば、子供を全的に把握して、非分解的に斷定的にその自發性を認めるほご愛したと申させう。フレーベルの兒童愛さいふものがフレーベル幼稚園の根柢であることは申すまでもないのであります。その兒童愛さいふ感情を少し難しく言つて見ますならば矢張り哲學から出て居る。皆様が子供をお愛しになるのは哲學から出て居るか、或は鉛から出て居るか、或はアイスクリームの溶けかゝりから出て居

るか、それは私は知りませんが、フレーベルのもその愛の端の方は勿論感情、情緒的ではありますが、貴君方が子供と共に溶けてしまふのこは違つて居りましたから、哲學的であつたと言へるのです。然るにそれを教育の方に移して来る段階に於きましては心理的に解釋したのであります。ところで、さういふ風に哲學的に兒童を愛し、心理的に兒童の生活を説明解釋する時、その點に於てフレーベルの觸れて居る子供は個人であります。一人であります。一人いふ意味は外の子供を捨てゝしまつた一人さか、その子供一人の勝手を尊重するいふ意味の一人ではない。舉り人間として、その一つに完成したる人間として、人間の代表として、人間いふものゝ其の完成せる一つとしての太郎、次郎、花子を見るのです。そしてそれを基礎にしてフレーベルは哲學に止めず心理學に止めず、又人間として尊重するに止めずして、教育に移して參つたのであります。これを私は人文的、心理的いふ言葉で現はして置きます。一體あゝいふ偉い教育者の着想がだん／＼傳はつて參りますには、そのまゝつゞつて傳はつて來るのでなく、その中の一部が傳はつたり、いろ／＼變化したりするのであります。フレーベル先生に於ても、或る人はその哲學に重きを置いてつゞつて參らへ行つたでせう。或る人はその心理學に重きを置いてつゞつて參らへ行つたでせう。或る人はまたその個人的の方向に向つてつゞつて行つたでせう。斯くしていろ／＼傳ふる人、傳へられる國柄によつてフレーベルの幼稚園がいろ／＼に變りました。殊にアメリカにフレーベルの幼稚園が非常に榮えまして、そこでは何かアメリカ式に變つたといふことはいふことではないですけれど、フレーベルの中のアメリカ的なるものが特に育ちました。アメリカの地味に於て、アメリカの風土に於て、アメリカの肥料いふことおかしいですが、そこで育ち易いものが育つたといふことが考へられます。日本の幼稚園は元より日本人が造り出しました。外國の人が幼稚園を、舶來のチーズやバターのやうに持つて來て、嫌だといふのに、これを喰はなければ文化人ぢやないぞと無理に喰はせたといふやうなものぢやありません。日本人が日本のためを思つて幼稚園を造つたのであります。ここに初めから日本のものがあつたといふことは斷定する。若しさういふことを言はなければ、少くとも、日本に初めて幼稚園を造りました、これを政府に獻言致しました中の最も大なる人である中村正直先生の如きに對して甚だ理解を缺くものだと言ひたいのであります。本年は中村正直先生の五十年忌に當りまして、先般こゝで講演會を開き、先生を追悼致しました。先生は實に大なる日本文化先覺者でありましたが、幼稚園いふものを時の女子師範學校に造ることを政府に建議せられました一番初めの人として今日傳へられて居ります。この先生は實に日本を愛する方でありました。日本のためにこ

そ幼稚園を造られたのでありますから、即ちその意味に於て國民幼稚園であつたことを誰か否定せんやであります。しかし又、これを否定することなくして考へて見なければならんことは、當時、さういふやうに今まで幼稚園といふやうな教育のなかつた時に、中村先生はイギリスで見て來られました。そこで勿論日本のために必要だから幼稚園を造らうとされたのでありますが、これは日本のためにいふものだと思ふ前に、これは哲學的に、心理的に、個人的に、實にいふものだ。ミクスういふ感想が強くあつたらうことは察せられるのであります。即ちフレーベルの幼稚園の教育者としての信念よりも幼児を教育するフレーベルの哲學的、心理的、教育的の考なり、その方法、これが今まで日本になかつた新しいもの珍しいもの、勝れたるものとして先生の眼を見張らせた、ミクスういふやうに私は察して宜からうと思ふのであります。

丁度、よそから子供の土産に物を買つて來る場合に、我が子のために買つて來る。イギリスからお土産を買つて來ることは、我が子をイギリス人にしようためにイギリスから洋服を買つて來たり、イギリスの本を買つて來たりするのはありません。愈々日本の子供たらしめようとして買つて來るのであります。しかし又、イギリスでその品を感じする點は、何んさよく出來て居る哲學的、心理的、個人的玩具であらうか、何んさよく出來て居る兒童の着物であらうか、ミクシして持つて來るのであります。そこで先づ日本の幼稚園は、明治五年に學制が發布せられ、明治七年に幼稚園が建議せられ、實現したのが明治九年、實に日本を本當の日本にしようといふ非常なる熱意が漲つて居る最中に出來て居る幼稚園でありますから、當然國民幼稚園と言つていふのですが、併し先づ取入れた、あの形、あの姿、あのやり方といふものは哲學的、心理的、教育的であつたといふことは言ふまでもありません。

(C)次にその後に至り、幼児教育を現代的發展に持つて來ました大きな原因は、心理的、哲學的、教育的以外に、社會的といふことがそんなに大きな働きをして居つたかは申すまでもない。今日託兒所、保育所と言はれて居りますが、要するに幼児期を大事にするといふことが社會的必要から大いに起りました。その社會的必要といふことは社會即ち國家にあらず誰が言ふや、ミクスういふことが言へる。國家にあらざる社會といふことを考へるのは今では無理な位でありますから、その意味では社會的といふことは國家的といふことであります。少なくとも今日の意識に於てはさうであります。明治の間ずつと行はれて來ました通念はその通念の本源であるヨーロッパの、アメリカの、ソシアルいふ言葉は、國家といふ締括りの纏まつた意味よりも、その中に動いて居る人間の集りを強調してゐます。つまりその中に個人がうご

めいて居るのであります。その社會に於て、所謂社會的の關心をもつて幼児の問題がいろいろに考へられたさいふ時に、それは即ち國家家であるのでありますが、意識の表に於ては、國家さいふこよりも、社會さいふこを考へたのであります。斯ういふ意味に於きまして、我が國の幼稚園は、そのもつて來ます元のフレーベル幼稚園の發生から申しまして、それがフレーベルの意識の上に現はれて居りますいろ／＼な表現の研究に於きまして、それがいろ／＼なところに傳はつて發達しました、その経過に於きまして、それが初め日本に取入れられました點に於きまして、今日の國家教育機關としての幼稚園は少し變つてゐます。勿論明治以後の幼稚園に、國家意識を忘れた幼稚園はありませんけれども、併しまアその心持の上つ皮の動きに於ては、皆さんが幼児を見る時に「あゝ、國民が來る。國民が左から來なされる。さア鍊成するから來なさい。鍊成せざるべからざるが故に來なさい」とは言はない。又「おう、自發活動が起つた。愛すべき太郎が來る。哀むべき社會の缺陷に惱める子が居る」といふやうなことで、皆さんの人文的、心理學的、社會的、教育的な感情によつて幼稚園をやつておいでになつたさいふこは、遠慮なさる必要はありません。それで宜しいのです。それで宜しいのですが、さうして、その根柢には、明日幼稚園に行つてこの歌を唄はうか、この話をしようか、皆國家的であつたであらうこゝはどれも疑ひませんけれども、だからこゝ言つて子供の前に出て「國家々々」「國民々々」こゝ言つてばかりなればならんこゝはありません。幼稚園では建國童話ばかり、「三匹の子豚」「アンデルセン作皆いかん。何んでも建國童話でなければいけない」といふこゝになつたらば、これは却つていけません。何んでも國家的でなければならんこゝ、もう毎日々々私の「國旗振れ／＼」の遊戯ばかりやつて居なければならんこゝは、却つて弊がありませう。ですから實にフレーベルに於て、あの大きな幼稚園は、而してフレーベルよりすつこ皆さんの胸に通つて居る、その尊きものは、それはごちちから言つても一つも悪いのではない。悪いのではないけれども、若し萬一、億一、千一、百一、一、その方ばかりに斯うなつてしまつて「國民教育は國民學校になつて始まるこゝである。幼稚園は、エ、ウ、チ、エ、ン、である。なアに國民なんてこゝは關係がない、おう聖女、おう兒童的、それでいゝのだ」と斯ういふこゝになるこゝ日本の國家が幼稚園に要求しようとして居ります只今の意識は、少なくとも、その強度に於て添はざるこゝろがあつては濟まんさいふこゝになるのであります。

この心持ちをすつこ集約して、フレーベル幼稚園、アメリカ幼稚園、宗教主義幼稚園、心理主義幼稚園、さいふやうな

ものよりも國民幼稚園を申請したい。あの國民學校の科目教科が「皇國ノ道」に歸著するを、昨日こゝに大書致しましたが、あれと同じ意味に於て「皇國ノ道」に歸著するをいふことを矢張り幼稚園の大眼目としなければならぬといふことになるのであります。

丁度時間が來ましたから、この點はこれで終ることに致します。

五 幼稚園と國民學校低學年

(一) 從來の考へ方

昨日は幼稚園が國民教育の系統の中にしつかりした位置を持つことになつた。同時に小學校との關係が必然的のことに考へられるやうになつた。従つてさうした意味に於ける幼稚園は假に心理學的の理由に基いて出來た幼稚園、或は人文主義的な、その人の人生觀に基いて出來た幼稚園、或は社會的の意味に於て必要とせられた幼稚園、といふやうなものに違つて、専ら國民的、國民鍊成のための幼稚園といふことになつて來るのでありますから、假にこれを國民幼稚園と名づけてもいゝのではないか、斯ういふやうなことを考へたのでした。斯ういふことは從來の幼稚園の考の中にも、それが日本の幼稚園である限りなかつた筈はないのであります、殊に假にさういふ表看板をさられるにしましても、保育者である日本教育者の信念の中には斯うしたものがあつたに相違ないのであります。然し幼稚園といふものが、その名を持つて居ります由來、それが世界的に擴がつて居りました譯合、さうして、それが日本に、その世界的なる幼稚園が傳はつて來た關係からしまして、或は日本が日本のために生み出したといふやうな意味から自覺して見ますと、少しさうした意識が少なくも裏に置かれてあつたやうなことはなからうか。殊に相手が小さい子供でありますから、そこに國民的の言ひましても、まだしつかり少年期の如く、殊に青年期の如く、その意味が確實に來ない趣きもありません、何んもなく或る軟かい心持ちさか、或は人類共通の教育的やさしみさかいふやうなことが幼稚園の根本本質に成り勝ちであります。これはそれとして、非常にうるはしいことでありまして、將來と雖も、決してこれが干枯びてしまつてはならぬのでありますけれど、こちゝに固まつてしまつてはならぬのでありますけれど、然し先づ理論的に國民鍊成といふ大きな意圖に基いた知識や

感情や、さういふものである國民鍊成といふ教育的意圖、それに基いた幼稚園が設立される。今まで設立されて居つた幼稚園はその意味に於て意識を新にされる。斯ういふやうなことを考へたのであります。私共は從來のお互ひのやつて居りましたことが國民的でなかつたといふことを假にも思ふことは出来ません。また人からさういふことを言はれましたならば我々はそれに決して従ふことは出来ません。充分國民的であつたのでありますけれど、同じく國民的であつた日本の小學校が特に國民學校と名を變へてまで、その意味を強くして來る今日に於きまして、幼稚園もまたその意味を、昨日の歌の文句を借りますならば「もつこ、もつこ、もつこ」その強くしなければならん。節が甚だ難しいのであります。」「もつこ、もつこ、もつこ」やらなければならん。斯ういふことを言ひたいのであります。

そこで、さういふ基本的な考へ方の話は、そこで止めまして、それから出て來る實際の問題としまして、幼稚園と小學校の關係が極めて必然になつて來る。その小學校への繋がりには先づ低學年に於て繋がるのであります。低學年と幼稚園の聯絡關係といふことが實際的に——觀念的でなく實際的に——さうなつて來るだらうか、といふ問題が今日の問題であります。これは今日始まつた問題でなく、從來永い間皆様が保育研究會をお開きになります。必ず一つづらる此の問題が出て、幼稚園と低學年の聯絡を如何にすべきか、ミ恰も敵味方でありましたものが、さうして和睦しようかといふやうな恐らしい顔でこれを更めて考へるといふ行き方であつたのであります。これは私共としましては實際は非常におかしいことでありました。幼稚園とは家庭教育を補つて、その幼児期の發達を完成させてゆくことが任務でありますのは、それがために家庭から小學校への聯絡が問題にならないで、幼稚園から小學校への聯絡が特に問題になるといふのは特に變なのであります。幼稚園で何か特別の色でも塗つて、小學校へ送るならば一應洗つて來いといふやうな、或は幼稚園で子供の魂を少し抜いて居るならば、もう少し入れてから來いといふことがあるかも知れない。幼稚園で小學校へ行つたならば、あの先生を馬鹿にして、さうして言ふことを聴くな、小學校の先生がそれだけの腕節をもつてゐるか分らんが、存分教場で暴れてやれ。日頃斯う言つたことをけしかけてゐるのです。そこにいざ行くとなつた時多少折合ひをつけなければならんことあります。ところが幼稚園は教育をして居ることは言ひますもの、幼児期の家庭教育を補ひつゝ完成して居るのです。その意味に於て普通のことをして居るのに、更めて小學校との聯絡に工夫を考慮しなければならんといふことは非常に變であります。そこで議論はさうであります。然し實際の問題が始終起つて居るのを見るに、實際にさういふ聯

絡を考へなければならん點は、何かそこに引つかゝりがあつたのであらうと思はれます。試みにそれを考へて見ますと、考へ得られるさいふ意味に於きまして二つのこごが考へられる。二つのこごしか考へられない。一つは幼稚園が幼児の生活完成する任務をやつて居りながら、またその心算で居りつゝも、家庭の中に成長しました子供、教育的にはさうであつたか知れませんが、生活的には極めて自然である家庭の中に育ちました幼児、積極的に幼児性がされだけ訓練されて居るか、それは分りませんけれ共、少なくとも幼児性の素直な自然なところが少しも損はれなくて行くであらう家庭に比べまして、幼稚園は二つのこごでそれ違ひがあります。一つは何んと言ひましても大勢寄つて居ります。或る種類の幼稚園は幼児期に相應しくない數の誤謬を起して居るかも知れません。あの五歳の子供が暮すには大き過ぎる社會形體を與へて居るかも知れませんが、幼稚園の先生は母が自分の子供を教育するよりも、この子を教育しなければならんさいふ意識に於て非常に強い。毎朝幼稚園で心身を發達せしめてやらう、斯う考へていらつしやるのでありますから、それが、そのこご自體が何も特別のこごを内容として居るのではありません。それをしようとする意氣込みに於て多少いかつゝいものがあるかも知れません。幼稚園の先生はやさしき顔でいかつゝいこごをする人だ。斯う言つてもいゝこごがあるかも知れません。笑顔と言つてもお母さんの笑顔よりも少し濃厚であるかも知れません。(笑聲)況して子供に引摺られて遂に子供に化せられて行くさいふ意味に於て、餘り教育的でなく見える母に比べますさいふこご、幼稚園の先生は責任上大いに幼児を對象として凄譯です。(笑聲)幼児を對象として教育なさる關係上、不知不識その教育は強烈と言はないにしても濃厚であるかも知れません。その二つの結果が不知不識小學校に行く子供、フラ／＼小學校に行く子供に比べて、多少の違つたところを生ずるかも知れません。斯ういふこごが私は從來の幼稚園にあるさいふ意味ではなくて、考へ得られるこごだ。申すのであります。二つしか考へられないさいふ、もう一つは小學校の側でありまして、小學校が小學校さいふ敷居を高くして、その敷居を跨いで來た子供には學齡に達するや否や、それが何歳であらうこご低學年であらうこご、そこは子供の世界さいふより教育の計畫したる世界であるさいふこごを非常に強調しまして、然もその教育は相當に古い時代に考へられて居りましたまゝの考へ方をそのまゝ續けてやるさいふやうな場合に於きましては、その小學校の教育が——少なくとも教育の仕方が——學校教育に馴染らされて仕舞つたるものには極めて適當でありませうけれ共、未だ學校教育に馴染らされない低學年には甚だ不向であるこごもあり得るのであります。殊に小學校の先生が若しも氣長に徐ろに緩々こ

の子を小學校の兒童にしようとする考へてやつて居て下さる場合は、ものが穩かに行きますけれ共、一體、人間が或る事に力を入れますと、初めに於て特に大層力を入れるものであります。初めは脱兎の如く終ひは處女の如く、と言つては、この席ではおかしな言ひ方でありませけれ共、さういふ初めは處女の如く終ひは脱兎の如くさういふよりも、實は初めの方が勢が強いのであります。日記帳にしても元日ばかり大きく書いて、だん／＼薄くなる。講義を筆記するにしても初めはしつかり書いて、二時間目あたりからだん／＼雜になつて来る。これは逆であるべきであります。私などは朝は少し寢惚けて居りますが、語つて居る内に高潮し來つて、時の移るを忘れて次の人の時間に喰ひ込むに至るのでありますけれ共、普通熱心家は初めを熱心にする。學校でも、いづれ上級になればするだらう、初めの内はちやんさやれ、さまさかさういふ譯でもありませんが、教育は先づ一年生にありさういふことになりませと、低學年が悉く内容の貧弱な辭に、形式だけいやに嚴かなやり方でやられる場合も考へ得られるのであります。毎朝「皆さんは小學校の子供になつたのである、夢おろそか、仇おろそかに……」なんて言ふものですから、子供は家に歸るに非常に疲勞する。小學校一年生の教室で私は屢々齒を喰ひしばつて居る子供を見ることあり得るに考へ得られるのであります。これはさういふことを必ずしも批難してのみ居るのではない、寔に御熱心なる結果でありませけれ共、それでは移り變りの聯絡がうまく行きません。するに、或る人は「その弊害は何も幼稚園から行つたものばかりでなく、家庭から直ぐ行つた子にも同じ無理ではないか」と言ひますが、家庭から行つた子供は、家庭は家庭、學校さういふ施設的教育機關は別個のものに考へて行きますから、そこでさういふものかご心得てるるのであります。幼稚園を通りました子供は、なまじ幼稚園さういふ教育機關で教育さういふものを和かに與へられて居りますために、同じ施設教育機關なのになぜこんな違ふのか、まさか子供がさういふ教育理論に首をかしげる譯でもありませんが、言つて見ればさういふことが起る。その關係からしまして私は從來さういふも、幼稚園さ小學校低學年の聯絡の問題の如きは考へるもつらいほごに變なこゝは思つて居りました。教育の自然の問題ではなくて、誤りに對する問題であるに考へて居りました。併しさういふことが起り得る小學校低學年であつたさういふことは、その受持ちの先生のお一人お一人の過ちさういふよりも、低學年そのものゝ一般問題として認められない譯でもなかつたのであります。

(二) 之れからの低學年と幼稚園

(イ) 然るにこの度、國民學校になりました場合、その低學年はさうなるかといふ問題であります。今まで考へられました國民學校の國民的意識に於きましては低學年もまたその國民的意識の強い教育を受くるのでありませう。即ち今までの小學校よりはいろ／＼なことに、隅々ささなく國民的といふことが、太郎的、花子的といふよりも強く入つて來ませう。併し、この點では、幼稚園も國民幼稚園になる限りは少しもそこに喰ひ違ひを感じませぬ。幼稚園が國民的鍊成に向つての方向を少しも與へて居ないで、急に國民學校低學年で國民的といふ方に向けるをすれば、これは一寸おかしな言葉でありますけれども、子ぎもが面喰ふかも知れません。けれ共、小學校が國民學校となるに同じやうに幼稚園も國民幼稚園となるならば、その點に於ては完全にうまく行くのであります。私はこれから、或はこゝにおいてになります皆様の中にそんなことはありませんが若し萬一、國民的といふやうな考なく、全く幼兒藝術と言つたやうな趣旨だけで幼稚園をやつてるやうな場合があつたならば、これは國民學校への聯絡は少し繋がりは悪いかも知れません。踊りの學校から小學校に行くことは聯絡がつかない、それと同じことになります。長唄のお稽古、踊りのおさらひから、小學校に行く時に、何も小學校の體操と聯絡すべきだといふことはありません。或は或る意味に於ての宗教幼稚園、即ち國といふものよりも、もつと超國家的のことにのみ重きを置かれて居る幼稚園から、國民的といふことの強い國民學校の一年生に入りますと、少しこの繋がりに疎いところがあるかも知れないのです。決して反國民的幼稚園といふものがある譯ではありませんが、國民學校低學年の精神と、その意識、その氣持ちの入れ方が釣合つて行きませぬといふと、そこに聯絡は保てんかも知れません。併し、そんなことは私は問題にもしません。これからはみんな國民幼稚園になると思ふのでありますから、そんなことは問題にしない。

(ロ) そこで、さういふ教育内容に於ての聯絡關係ではなく、教育の方法、或は方法から生ずる形體、それに於ての聯絡關係がさうなるであらうかといふことが實際的問題であります。今までも斯う言つて居りました。幼稚園では自發を重んずる、小學校では注入する。幼稚園では生活を重んずる。小學校では教育を重んずる。幼稚園では具體的である。小學校では抽象的である。さういふ風な違ひが若しあるとするならば、それはうまく繋がりにくいものでありませう。そ

こでさういふことを心配する意味に於きまして、幼稚園の終ひ頃には小學校的といふ言葉に於て現はされる教授的、注入的、或は形式、訓練的、斯ういふやうなことを幼稚園でも馴らして行くことが必要だき考へられた位であります。お前は今まで幼稚園で楽しい生活を暮して居つた。これからはやかましい小學校に行くのであるぞヨ。可哀想に、このまゝ行つては尙苦しいだらう。世の中は皆こんな譯ではない。だから少し賤けて置くゾ。お前は今まで家に娘として暮して居つた。今はお嫁に行く、さうするに向ふに行つてはちゃんとしなければならん。少し練習をさせる。夏だからさ言つて脚を出してはいかん。夏だからさ言つて扇を使つてはいかん。夏だからさ言つて笑つてはいかんといふことはありますまいが、その位にですネ。ところが今度の國民學校低學年、國民學校といふ名にこだはります、大變目的意識の方が強くなりますが、教育方法の方面に於きまして大に變つて來るのであります。先づ教育審議會に諮問案が出ました時に、それを説明した當時の伊東文部次官の言葉があります。それをまた協議して答申された教育審議會の答申の言葉があります。更にその後、特別委員會の委員長の説明さなつて現されて居る言葉があります。更にその後、文部省教則案施行規則になるであらう發表があります。更にそれを逆にさかのぼつてはもう一つすつ前に——教育審議會といふ立派なしつかりした形になります前に——文部省が教育を改造しようといふ意圖を、自ら現したか、新聞社が探り出したか、新教育はこんなやうに變らなければならんといふ意見が外に現れたことが時々ありました。さういふのを、あの言葉この言葉引いて來ます。さ非常にうるさくなりまゝから全體をひつくるめて抜き出して見ます。さうするに、その全體を通じて、低學年を、方法上幼稚園に似たものにして行く傾向が考へられて來るのであります。勿論幼稚園のやうにしように、そんなことを意識して考へたわけではありません。まして、「あゝ、國民學校低學年、今まで小學校として妙に幼稚園と別にのみ構へてゐた低學年、それが、そら見たことか、負けたらう。幼稚園のやうになつて來たぢやないか。なんてことを言つてはいけません。さうぢやない。さうぢやないけれ共、然し有難いことに——謙遜して申しませう——有難いことに、或は現代教育の進歩さして當然——何んだか有難くなさそうな言葉になりましたが——當然のことで非常に兩方の關係が似て來ました。似たさ言つたら、「なアに兄が弟に似るかい」に斯う言ふでせう。兄が弟に似て居るヨといふことは餘程變な理窟なんでありまして、そんなことは言へないのでありますけれ共、兎に角似て居る。同じく親の子ですもの似るのが當然です、その似て居るさいふところをいろ／＼申して見ます、何も低學年のところで似て居るさいふだけではなくて、國民學校といふ

教育に於て、その教育方法の方針とするところが大層變つて來て居るのであります。第一主知的でなくなりまして。但し、主知的といふ言葉は餘程靜に考ふべきでありまして、主知的でなくなつたから無知の方がいふといふ、そんな譯ではない。身體が丈夫で、情操が豊で、知識なきこそ宜けれといふのではありません。知識が人生に大事であり、教育に大事であることは申すまでもない。唯、知を知として抜き出して取扱ふといふことをしないといふだけのことであります。それならば知を知として抜き出すといふことをしないといふ言ひ方ならば、外の感情でも身體でも同じぢやないかといふことになります。身體は身體だけ抜き出して健康本位なんてことは許せません。感情本位、そんなことも許せません。中にはそんなのが居りますネ。外に取得はないが身體を見てくれエ、それはまア結構なことでありますけれ共、教育としては何もそんな偏つたことぢやアないですから、或は私は身體も弱いし、知識も弱いし、感情は豊なのよ、これは非常にやさしいことですけれ共、病的詩人でも作るといふのならそれだけのことであります。だから知識だけを抜き出すといふことを問題にしないで、それだけ抜き出した、これだけ抜き出されて教育された、といふことは許されないので。だから何も知識だけのところを問題にしないで宜しいのであります。これは從來の教育の實際に於きまして身體よりも感情よりも知識を主とする抜き出し方が非常に強かつた。恰もやゝかり、蟹の手のやうな工合に知識一つが偏りたる發達をして居る。私はあのやゝかり蟹のこんなの(手真似)が出て居て、こんな風なのがあります。あれを見て、あの大きな手を見て、小さくすればいいのにと思ふよりは、もう一方の手も斯う出ればいふと思ふのであります。こつちの大きいのを小さくしようといふのでなく、こつちの方も出し、こつちの方も出せば、殻も大きくなり、身體も大きくなる。そこで主知的でなくなるといふことの眞の意味は、教授・訓練・養護を分離的ならしめさへしなければ、直ぐ解決されてしまうのであります。主知的といふ言葉を攻撃します時に、知識を目的にすることは大間違ひであります。まだくくくく知識は盛んにならなければならん。けれ共、その知識といふものを教育する時に知識を主にする教授を矢鱈に抜き出して、その傍に一寸、刺身のつまのやうに訓練がくつついて居たり、養護がくつついて居て、ふさする見失はれてしまふといふやうなことであつてはならない。これを國民學校全體として教授・訓練・養護を分離ならしめてはいけないといふ言葉で言はれて居ります。教育の根本原理として分離してならないのだと申します。教育の根本原理に於て分離しない上に、その年齢の特質的に於て分離しないといふのが幼稚園の實際であり、低學年の實際であります。丁度、低學年の時は幼稚園に近い生活といふ特質

を持つて居りますから、國民學校全體の中でも殊に低學年のところではそれが一層さういふ形に於て行はれるであらう。こゝは素よりであります。幼稚園は、保育は、さうにでも定義出來ますが、保育は教育だ、だけれ共、こゝまでも分離的にしないのです。太郎の身體も心も心身一如。幼稚園に修身はない。幼稚園に體操はない。心身一如。幼稚園に教授の時間、訓練の時間、そんなものはない。總て渾一、これが保育であります。その幼稚園は、今言つたやうな意味に於ける國民學校教育の方法は非常に近づいたではありませんか。然も今までの小學校でもさういふことを新しき教育學説として主張せられた人は澤山あつたのでありますけれ共、國家はそこをさう強く示して居なかつたのであります。それが今度しつかり示されて來ます。そこに幼稚園を致しまして、垣根もない向ふ隣りに、實に同じやうなものがあることを感じて來られるのであります。即ち主知的でなくなるのであります。主知的でなくなるならば主情的になるが、主體的になるか、そんなことではない。何か主になつてはいかん。人間全體、生活全體でなければいかんといふ譯、そのことを更に教育の方法に於て最も重き位置を持つて居ります。學科を元にして考へて見ます。從來の教育は學科を元にして何んさなく抽象的でありました。抽象的であつたといふ言葉を直ぐ使ふに餘り行過ぎるかも知れませんが、先づ分科的であつた。これは前に學科といふものが教育に於て出來て來る由來を簡單に申しました時に既に觸れたことでもあります。數へ方は數へ方で數へ方、理科は理科で理科、圖畫は圖畫で圖畫、斯ういふやうに、學科が生活必須なるものをあれもこれも拾つて來してもさうなりません。學問から天降つて來してもさうなるのであります。従つて學校教育に於ける學科は分科的に取扱はれるのを、誰も疑はないやうなこゝになつたのであります。分科的に扱ふといふこと、そのこゝが必ずしも悪いのではないが、分科的に扱はれると、生活そのものゝ具體性がなくなつてしまふこゝが我々の心配する點であります。保育の方で始終私の申したこゝである。子供が花園に咲いて居ります。ダリアの花を見ました時に「綺麗だなア」と言ひます。先生は直ぐに「あの花は何んさいふのですか」「ダリア」「植物學」「幾つダリアが咲いて居ますか」「一ツ二ツ三ツ四ツ五ツ六ツ」「あゝ算術」その内に誰か行つてそのダリアを取る「そんな亂暴なことをするのばダリア」これは訓練といふのです。蝶々が飛んで來ると、先生はダリアを見せようと思ふから、先生の教育的計畫をあつた蝶々に取られるこゝはくやしいのであります。「蝶々あそこから來い、動物學の時間來い」なんてことを言つて居りますが、子供は蝶々に氣をさられる。さうする先生は「今は植物學」斯ういふことを分科的にいふこゝにしては、その先生の心持が狭くて外のもの

は見えない。子供に語りましては、その花園、ダリアが咲いて居る。ダリアが咲いて居るから蝶々も来る。太陽が斯う照つて居る。そのいろ／＼な生活全體の、そこに行はれる舞臺から、花を見る時は花、蝶々を見る時は蝶々、數へる時は數へる時、色のこゝは色。これでは全く抽象的であります。幼稚園ではさういふこゝをしません。但しこれは、幼稚園といふものは非分科的で何んだかボンヤリであれといふのはありません。花園へ子供を連れて行つて「あゝ花園よ、花園よ、何があるかは知らねども、あゝ花園よ、花園よ、分科抽象何かせん、あゝ陶然と睡らんか」さういふのが幼稚園ではない。けれ共、反對に、すべてが餘り分れてしまつては、花園といふ生活の具體性を失はれてしまふこゝが我々の非常に問題にして居つたこゝであります。こゝが今度の國民學校は、さういふ抽象的、分科的になるこゝを出来るだけ避けようとして居るのであります。この間こゝに表に書きました「皇國ノ道」に歸せしめるといふのが、これが非常な中心觀念であります。そのために地理が必要だ、算術が必要だ、國語が必要だ、といふ考へ方ではなくて、國民科が必要であり、理數科が必要であり、體鍊科が必要であり、藝能科が必要である。斯う考へる。即ち國民學校の今度の言葉の使ひ方としては、統合されて居るこゝといふこゝであります。統合といふ言葉は從來の教育學上の言葉としては、一度分けたものを集めるこゝといふ時に使ふ言葉でありますから、今日言はうとする意味さびたりは合はん歴史的因縁がくつついて居りますが、國民學校では分れて居るものを合せるのでなく、合つて居るから合つて居る。これは「皇國ノ道」に歸せしめるために出たこゝでありますけれ共、方法の問題として移して見ましても、吾々の非常に嬉しい點であるのであります。その統合といふこゝの外に綜合といふ字が國民學校に關する言葉のいろ／＼なこゝろに出て居ります。この綜合といふ言葉は別に國民學校のいろ／＼なこゝろで用語上の定義といふものが出来て居りませんから、解釋の仕方がいろ／＼になるであらうと思ひますが、まア言つて見ますれば、統合とは縱の勢ひを持つて居るものであります。即ち「皇國ノ道」に歸一するべく統合して居るのであります。あらゆるものが——妙な譬へであります——太陽を中心としてすつと引上げられる場合があつたさするならば、廣い野原にありますいろ／＼のものが太陽に向つてすつと斯う圓錐形的に引上げられると見れば、これは縦に纏まりがついて來る統合であります。科目が教科に統合されて居るのは、それが——澤山の科目が——たつた五つの教科に統合されて國民鍊成に歸一するといふ、斯ういふ縦の問題を考へられます。縦であります、その統合されて居る何處かに、斷面を切つて見ればいろ／＼のものが一緒になつて居るこゝといふこゝであります。勢ひが縦に伸びて

居りますが、然しそのところは一緒になつて居る、その横、横斷面的に考へました集り方、これを綜合と言つて居るのであるが、私は解釋して居る。そこで——稍々教育思想に關するお話になりまして面倒臭くなつて相濟みませんが——綜合教授といふ言葉は何かこの國民學校の話の起りましてからの話ではなくて、その前から今日の教育方法の改造の上で新教育學說として起つて來たことであります。そのいろ／＼起つて來ました綜合教育といふものは、必ずしも綜合といふことを考へることもなく、唯、綜合といふことだけを考へた考へ方も澤山ありました。畢り離れ離れにならないやう、分離しないやう、よく私が例に引きまして皆さんに笑はれます、所謂五目飯學說、五目飯學說といふのはいろ／＼のものが綜合されて井一つになつて居るのであります。あの中には米も入る、玉子も入る、推茸も入る、いろ／＼のものが入つて一つの綜合體になつて居る。あれを離れ離れに喰べないで綜合的に喰べるのが五目飯の喰ひ方である。こんざは一つ涼しくアイスクリームにしても、いろ／＼のものが混つて居りますけれ共、アイスクリームといふ一つに綜合されて居る。あの中の冷めたさを感じ、甘さを感じ、匂ひを感じ、滑かきを感じ、それだけではアイスクリームでも何んでもない。あれが一つに入つてアイスクリームであるのです。けれ共、これはいろ／＼の味、いろ／＼の食物が綜合されて居るだけでありまして、綜合といふことに何んの關係があつて言つて居るのではない。まア事によつたならば、變にこじつければ、あつするところによつてお客さんに出す、即ち何處かに捧げて行くために井が便利だといふ理窟がつくかも知りません。

(二)そこで、その綜合といふことが國民學校をしましては綜合を重んずるほかに主眼にして居りません。國民學校の教科は「皇國ノ道」に歸一するところをもつて本旨として居ります。そのために綜合して行くといふことについては強く主張して居るのであります。學科自身の關係が互ひに綜合するといふことについては綜合ほゞ強く言つて居りません。さう申しますのは文部省が大變に今心配して居ります。國民學校の教育方法は綜合的なりといふ言葉では非常に誤解されるといふことを申して居る。しかし、私をして考へを言はせていたゞけば、成程、綜合でありますから成程本旨は綜合、大きな狙ひ所は綜合であります。子供にさう向つて行く面は——教育の方法は——綜合でありまして、教育の方法は綜合でありませんが、子供の觸れて行きます面としては綜合と思ふのであります。綜合のための綜合ではないかも知れないが、綜合したものが綜合に感ぜられる、斯う私は思ふのであります。その綜合といふことが幼稚園の實に今までやつて來たことでもあります。こゝで大變に關係が近くなつて來たと言へる。殊に國民學校の方で綜合といふことを國民學校全體に互つて適

用しようさいふこは文部省の言つて居ないところでありませんが、低學年に於ては今まで絶対に許されて居なかつた綜合が許されたのであります。これは大きな問題であります。今まで日本の小學校に於きましては綜合教授さいふこは法令をもつて許されないのであります。この來年三月までは許されないのであります。四月からこれが許されるのであります。

但し、國民學校全體が總て綜合主義でゆくさいふこは、申せないのであります。そこで充分なる用意を遂げて、地方長官の認可を受けた時だけそれが許されるさいふ條件が付いて居ります。低學年は綜合なるべしと言つて居るのではなく、地方長官の認可を受けなければならぬさいふ、大きな條件がくつついて居ります。私の話のそのところを取りこねて、國民學校低學年は皆綜合になつたのであると思はれてはなりません。理論は理論、學説は學説、大事な日本の子供を取扱つて貰ふのに萬一間違つたことをされては困るので、大事に大事をまつて、綜合さいふ、まア新しい、未だ充分經驗されないこは、うかゞとして危険でありますから、そこでさういふ條件をしつかりくつついてあるのであります。

併し、何んだ條件付きか言つてしまつてはいかん。世の中こは實は何んでも條件は附いて居ますヨ。教育は悉く條件付きであります。「日本の子供を貴女に託す、よしなに取計はれたし。」なんてこはありませんヨ。教育は皆國家が條件を付けて居ります。ですから綜合さいふこについても條件がついて居つてもそんなに驚かないのであります。同時にまた條件付きではありますけれど、綜合さいふこが條件付きなほど重んぜられて居るのである。斯う私は解釋するのである。綜合さいふこを言つては置くがさせない爲に條件を附けたさいふやうな氣味悪いこは、私のやうな朗かな人間には考へられません。(笑聲)綜合教授に條件をつけてあるのは、よき綜合の生れかしこ、さういふ意味合ひに私はまりたいのであります。即ち國家は低學年の教育に於て綜合さいふこが本當に行はれ、ばいこさださいふこを是認して居るのであります。こゝから先は私の勝手な空想、何年かの先には條件なんか附かなくさいふほぎに綜合が行はれることを願つて居ります。文部省がさう言つて居るのではありませんヨ。私がさう言つて居るのですヨ、そこで、兎に角として、さういふ傾向になつて來た。低學年がさういふ傾向になつて來ました時に、何んぞ幼稚園と關係が近いでありませう。幼稚園ではもう疾うから綜合をやつて居ります。保育項目を一つく取扱ふべしさいふ項目は何處にもありません。私は古くから誘導保育案さいふこを提唱して居りますが、あの誘導保育案が良いさか悪いさかさいふ私の主張ではなく、誘導保育案さいふものを考へる経路を幼稚園教育者として苦心致して居るのであります。如何に、あの手技と談話と圖畫と觀

察と遊戯と離れ／＼の取扱ひをさせないやうに生活に綜合させようといふことに苦心し來つたのであります。今度は低學年もさういふ精神に向つて居ります。更に、例へば理數科といふ教科があります。その中には算數と理科が入つて居ります。子供は理數科として受けるのであります。今日は理數科といふのであります。その時にお母さんは「先生はおるか」(理數科)と言ふかも分りませんが、まあさういふやうに算術と理數科といふやうに言はないで、その理數科の中に算數と低學年から理科があります。皆さんお悦び下さい。何んだ嬉しくもないとあつて仰しやるかも知れませんが、從來の小學校では算術が一年に五時間、二年に五時間、三年に六時間、理數科名のつくものは無し、斯ういふのであります。幼稚園の觀察は理科ではありませんが理數科的の性質を多分に帯びて居るものであります。その幼稚園ではグリアも存分に與へて居る。教へはしないけれども共與へて居る。蜂を捕つて來て、蜘蛛を捕つて來て、あの通り皆さんが苦心慘憺して自然を與へておいでになります。ところが理數科といふものは小學校では四年にならないとない。貴君方があんなに子供と汗を流して蝶々を尋ねて、さうして「これはねエ、紋白蝶ヨ」を斯う教へることもなく仰しやる紋白蝶は、小學校では四年になつて初めて出て來ます。國民學校では理數科は同じく五時間でありますが、理數科として、一年から理科が入つて居るといふ形體になるのであります。即ち貴君方の觀察は小學校へ直接にすつと續くのであります。「蝶々に會つたは、想へば四年の昔」(いふことにはならないのであります。直ぐ小學校の低學年で問題になるのであります。音樂といふやうなものも三年からでありました。或は圖畫も矢張り三年からでありました。これも藝能科といふ意味に於きまして一年から入つて居ります。想へば古への小學校低學年は、あの子供の傍に飛んで居ります蝶々を見ても櫻の花を見ても教科としては與へず、お花見に行かう、それは學科ではないと、享樂だと言つて別にやつて居つた。或はあの生れた時から繪を書いて、幼稚園ではクレオンをあんなに書き潰して繪を書いた圖畫が、圖畫といふ學科に於きましては小學校に行くに三年に行かなかればなかつた。だから生活は生活、教場は教場といふやうになつて居つたのであります。今度は實に幼稚園から低學年へスラ／＼と續いて居ります。この時に當つて幼稚園が抽象的な、分科的なやり方をして居りましたならば實に遅れて居ります。小學校に合はせるために斯うして居るといふ間に、國民學校がお先に御免を被つて居りますから、うかうかして居られません。(つづく)

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)

金七拾錢

目 日本国旗の丸の旗
倉橋惣三作詞
小松耕輔作曲

目 渡し場の船頭さん
倉橋惣三作詞
中山晋平作曲

目 火消しのなごさん
倉橋惣三作詞
小林つや江作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)

金五拾錢

目 め だ か
小松耕輔作詞
小松耕輔作曲

目 ほ た る
青山綾子作詞
小松耕輔作曲

目 ふ し ん 場
小松耕輔作詞
小松耕輔作曲

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長
 主幹 東京女子高等師範學校教授
 附屬幼稚園主事
 下村 壽一
 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳拾圓	金拾圓
一年分	金四圓拾錢	金拾五圓	金拾圓
拾貳冊送	金四圓拾錢	神田區駿河臺ノ三品田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和十五年十月二十八日印刷納本
 昭和十五年十一月一日發行
 昭和十五年十一月一日發行
 幼兒の教育 第四十卷 第十一號

不許複製 轉載

編輯者 倉橋 惣三
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 倉橋 惣三 常

發行所 日本幼稚園協會

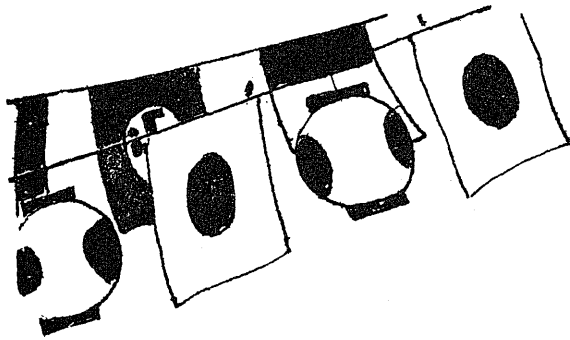
振替口座東京一七二六六番
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

注 文 規 定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます(郵券代用の場合には總て一割増)
 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます

たのしいお細工

うれしいお正月、降誕祭。この季節の手技材料がいろいろ取揃ひました。今から拵へてまちなませう。戦地の兵隊さんにもあげませう。



- ◇ストッキング用織紙 五〇組 二、八〇銭
 - ◇星(金銀の美しい星) 一箱 七五銭
 - ◇終の葉 一箱 五〇銭
 - ◇お誕生祝の鯛 一〇〇枚 二、二〇銭
 - ◇国旗ミ日の丸 一箱 二五銭
 - ◇提灯ミ日の丸 一箱 二五銭
 - ◇後藤連繋紙 一箱 五〇銭
 - ◇カレンダー掛星形臺紙 一〇枚 八〇銭
 - ◇モモトラウカルタ 一組 二五銭
 - ◇健康カルタ(東京大阪) 各一組 二五銭
- その他羽子板材料、獨樂用材料等

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
發行

昭和十五年十一月二十八日印刷納本
發行

定價參拾五錢

食店レベレフ 株式會社

本社 東京神田區保善二丁目 電話(33) 三六六二番
支店 大阪區後備五丁目 電話(24) 九三七八番